

小学校教員の専門性を高めた 質の高い授業の促進

～小学校教科担任制の導入～

手引き



大分県教育委員会
令和4年3月

目次



はじめに.....	1
1 これまでの学級担任制の抱える問題点.....	2
2 問題解決に向けた教科担任制の導入.....	3
3 「学級担任間の交換授業」導入の目的.....	4
4 導入の課題と対策.....	5
(1) 学校規模・課題に応じた教科選択.....	6
(2) 学習指導や生徒指導の充実.....	11
(3) 円滑な実施のための啓発.....	12
5 教科担任制推進校及び推進教員配置校.....	13
6 推進校及び推進教員配置校の導入状況.....	14
7 教科担任制推進の成果と課題.....	34

はじめに

県教育委員会は、次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力の育成に確実に繋がる授業を創造するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をすすめています。

子どもたちの抽象的な思考力が高まる小学校高学年という時期の指導には、特に教科の高い専門性が求められます。また、思春期にさしかかり、子どもの様態が多様化するこの時期には、様々な教員による多面的な指導も求められます。

そこで、県教育委員会は、令和元年度から3年度まで、小学校高学年の教科担任制が県内で広く導入されることを目指して、「小学校教科担任制推進地域」及び推進地域内の「小学校教科担任制推進校」を指定し、学級担任間による交換授業を中心とした実践的研究を進めてまいりました。

推進校9校が実施した児童質問紙調査によると、国語や算数などが「好き・分かる」と答えた児童や、「自分から進んで学習に取り組んでいる」と答えた児童が増加するなど、成果が見られました。さらに、推進校9校において、令和元年度と令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果を比較すると、学力向上にも効果があることが分かりました。

これは、学級担任間で授業を交換することで、教員一人が指導する教科数が減少し、教材研究が深められたことや、同一教科を複数学年で指導することにより、教科の系統性を踏まえた指導が行われたことなどによるものと捉えています。また、指導に当たる複数の教員が児童の情報交換を頻繁に行うようになり、多面的な児童理解に基づく組織的な生徒指導が行われるようになってきたという声も聞かれます。

一方、導入をためらう学校からは、児童理解という面で、学級担任の指導時数が少なくなることに不安をもつ教員の意識改革の難しさや日課表編成の難しさ、授業時数調整の煩雑さ等が度々指摘されています。それらの解決につながるヒントも本手引きに記しています。

令和3年1月の中央教育審議会答申では、令和4年度を目途に、小学校高学年からの教科担任制を導入することが示され、教科指導の専門性をもった教員によるきめ細かな指導の充実が求められています。各学校においては、本手引きや推進校の好事例を参考に、自校の規模や地理的条件、人的配置、児童の実態に応じて指導体制を工夫し、一層、質の高い授業が展開されることを期待します。

令和4年3月



大分県教育庁義務教育課

課長 武野 太

1 これまでの学級担任制の抱える問題点

① 学習指導について

- ▲ 個々の教員のもつ教科指導力が1クラスに留まりがち
- ▲ 指導教科数が多く、教材研究の時間確保が困難

学級担任制では、個々の教員のもつ専門性を校内で十分に生かすことができない場合もあります。

また、小学校の学級担任は指導教科数が多く、勤務時間内に教材研究や授業準備等が十分にできない場合もあります。

② 生徒指導について

- ▲ 学級担任との不応適による学校生活や学習への影響

学級担任制において、学級担任の指導に対して児童が不応適を起こすと、短期間で関係を改善することは難しいため、学校生活や担任が担当する全ての教科学習に影響を及ぼしてしまうことや保護者との関係づくりが難しくなる場合もあります。

③ 中1ギャップについて

- ▲ 中1での教科担任制の開始に伴う不応適の生徒の存在
- ▲ 接続期カリキュラムの準備不足

思春期という心身ともに発達課題の多い時期に、小学校卒業や中学校への入学などを経て、新たな学習方法や指導が異なる環境に入る際の移行が子どもにとって円滑に行われていない場合、不応適になる場合もあります。

2 問題解決に向けた教科担任制の導入

小学校における教科担任制の類型として、主に下記の4つがあります。
学級担任制の抱える問題点を解決するに当たり、今回目指すのは、類型④の「学級担任間の交換授業」です。

小学校で考えられる教科担任制の類型

① 完全教科担任制

(例) 中・高と同様の教科担任による指導

発達段階から公立の小学校では実施しにくい
人的配置も基本的に行われにくい

② 特定教科における専科教員の単独指導

(例) 体育専科教員、音楽科専科教員配置等による指導

多くの小学校ですでに導入

③ 学級担任とTT指導を行う専科担任

(例) 専科教員が学級担任と行うTT指導

多くの小学校ですでに導入

④ 学級担任間の交換授業

(例) 学級担任間で、特定の教科の授業交換で行う指導

今回導入を目指すもの



- ◆ 高学年を中心に
- ◆ 国語、社会、算数、理科、外国語を中心に



3 「学級担任間の交換授業」導入の目的

学級担任間で長期的に授業を交換し、学習指導を進めていくメリットとして、主に下記の3点が挙げられます。

① 学習指導の充実

◎教科の専門性に基づいて、指導方法の工夫改善が充実できます。

- 複数学級での授業実施による指導法及び評価方法の改善が図られる。
- 指導教科数の減少に伴い教材研究の時間の確保がしやすい。
- 教材研究の深化や教具の創意工夫がしやすい。



② 生徒指導の充実

◎多面的な児童理解に基づいて、組織的な指導が充実できます。

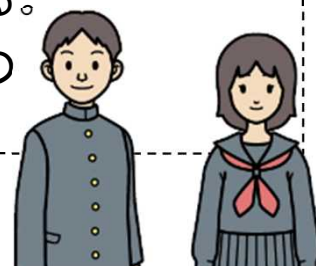
- 複数教員による指導体制により、児童理解が深まる。
- 情報共有のための教員間の連携強化が図られる。
- 学級経営から学年・学校経営への教員の意識改革が進む。



③ 中学校への円滑な接続

◎学びの連続性を確保するための小・中学校の円滑な連携が進みます。

- 中学校進学時の学習等に対する児童の不安解消が図られる。
- 小・中学校の指導内容の系統性を踏まえたカリキュラムの検討が行われやすい。



4 導入の課題と対策

学級担任間で長期的に授業を交換し、計画的に学習指導を進めていくに当たって、主に下記の3点のような課題が考えられます。

ここからは、その課題に対する解決のヒントを紹介していきます。

(1) 学校規模・課題に応じた教科選択

6ページ参照

- ① 学級担任制を基盤とし、実情に応じた実施学年・教科を選択
- ② 学校の実情に応じた計画的・弾力的な時間割編制と変更



(2) 学習指導や生徒指導の充実

11ページ参照

- ① 学年部会の定例化による情報交換の実施
- ② 同じ教科担当者による打ち合わせや単元の指導計画の作成



(3) 円滑な実施のための啓発

12ページ参照

- ① PTAや地域との連携、また授業公開等の実施による啓発
- ② 学習計画表等で授業内容、宿題等を児童・保護者に周知



(1) 学校規模・課題に応じた教科選択

① 実情に応じた実施学年・教科

教科担任制を推進するに当たって、誰がどの学年のどの教科(高学年の国語、社会、算数、理科、外国語を中心に)を何時間もつのかを決定する必要があります。

【例1】 5・6学年 計2学級での交換授業 ⇒ 7ページ

【例2】 5・6学年 計3学級での交換授業 ⇒ 8ページ

【例3】 5・6学年 計4学級での交換授業 ⇒ 9ページ

【例4】 学級担任間による単元の交換授業 ⇒ 10ページ

- ヒント**
- 教員の得意教科等に配慮し、担当教科を決める。
 - 担任外教員を加えて、指導教科数をさらに減らしたり、空き時間を増やしたりすることで、教材研究や教材作成の時間を確保する。

② 計画的・弾力的な時間割編成と変更

各教科等において、標準の授業時数を踏まえて計画的に指導していくためには、時間割の編成と変更が重要です。

- ヒント**
- 各教科担当の週指導計画に基づいて計画的に時間割の変更をする。
 - 週指導計画を職員室に掲示するなど、全校的な協力体制をつくる。
 - 特別教室の使用等、全校的な理解を得ながら時間割の変更をする。
 - 学級担任の交換授業は同じ時間帯に設定(変更が容易)する。
 - 時間割編成ソフトや中学校のノウハウを活用する。

【例1】 5・6学年 計2学級での交換授業

5年(A教員)					
	月	火	水	木	金
1	算	算	算	算	算
2	国	国	国	国	国
3	理	理	理	社	社
4	社	音	図	外	外
5	音	体	体	体	家
6	道	総	-	総	特

6年(B教員)					
	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	算	算	算	算	算
3	社	社	社	理	理
4	理	体	体	音	家
5	体	音	図	外	外
6	道	総	-	総	特

担任A教員 ⇒ 算数(5時間×2学級)、理科(3時間×2学級)

担任B教員 ⇒ 国語(5時間×2学級)、社会(3時間×2学級)

A教員					
	月	火	水	木	金
1	5年	5年	5年	5年	5年
2	6年	6年	6年	6年	6年
3	5年	5年	5年	6年	6年
4	6年	5年	5年	5年	5年
5	5年	5年	5年	5年	5年
6	5年	5年	-	5年	5年

B教員					
	月	火	水	木	金
1	6年	6年	6年	6年	6年
2	5年	5年	5年	5年	5年
3	6年	6年	6年	5年	5年
4	5年	6年	6年	6年	6年
5	6年	6年	6年	6年	6年
6	6年	6年	-	6年	6年

※ 日課表は参考であり、実際には月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎ 担任の担当教科数が**2教科減少**します。

- 担任外教員を加えることで、さらに教科数が減少し、空き時間もでき、教材研究の時間も確保できます。
- 担任外の教員が配置されていない学校は、実施教科の工夫により、担当教科数が減少されます。

【例2】5・6学年 計3学級での交換授業

5年(A教員)					
	月	火	水	木	金
1	理	音	図	音	家
2	体	体	体	社	社
3	国	国	国	国	国
4	算	算	算	算	算
5	社	外	外	理	理
6	道	総	-	総	特

6年1組(B教員)					
	月	火	水	木	金
1	国	図	音	家	音
2	算	算	算	算	算
3	社	社	社	理	理
4	理	国	国	国	国
5	体	体	体	外	外
6	道	総	-	総	特

6年2組(C教員)					
	月	火	水	木	金
1	体	体	体	外	外
2	国	国	国	国	国
3	算	算	算	算	算
4	社	社	社	理	理
5	理	音	図	音	家
6	道	総	-	総	特

担任外の
D教員

⇒ 国語
(5時間×3学級)

⇒ 6年1組の
外国語(2時間)

⇒ 6年1組の
体育(3時間)

担任A教員 ⇒ 理科(3時間×3学級)

担任B教員 ⇒ 算数(5時間×3学級)

担任C教員 ⇒ 社会(3時間×3学級)

A教員					
	月	火	水	木	金
1	5年	5年	5年	5年	5年
2	5年	5年	5年		
3				6-1	6-1
4	6-1			6-2	6-2
5	6-2	5年	5年	5年	5年
6	5年	5年	-	5年	5年

B教員					
	月	火	水	木	金
1		6-1	6-1	6-1	6-1
2	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1
3	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
4	5年	5年	5年	5年	5年
5					
6	6-1	6-1	-	6-1	6-1

C教員					
	月	火	水	木	金
1	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
2				5年	5年
3	6-1	6-1	6-1		
4	6-2	6-2	6-2		
5	5年	6-2	6-2	6-2	6-2
6	6-2	6-2	-	6-2	6-2

D教員					
	月	火	水	木	金
1	6-1				
2	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
3	5年	5年	5年	5年	5年
4		6-1	6-1	6-1	6-1
5	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1
6			-		

※ 灰色のコマは空き時間を示す。

※ 日課表は参考であり、実際には、月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎ 担任の担当教科数が**3～5教科減少**します。※担任外教員1名を加えた場合。

◎ 担任の空き時間は**6～7時間**となります。※担任外教員1名を加えた場合。

○ 担任外の教員を加えることで、教科数が減少し、空き時間もでき、教材研究の時間も確保できます。

【例3】 5・6学年 計4学級での交換授業

5年1組(A教員)						5年2組(B教員)						6年1組(C教員)						6年2組(D教員)					
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	
1	社	音	体	体	家	1	国	国	国	国	国	1	理	体	音	家	社	1	音	家	家	外	外
2	家	理	図	社	社	2	体	外	家	理	理	2	算	算	算	算	算	2	国	国	国	音	図
3	国	国	国	国	国	3	社	音	図	音	体	3	音	社	社	理	理	3	算	算	算	算	算
4	算	算	算	算	算	4	理	家	外	社	社	4	国	図	国	国	国	4	社	社	社	理	理
5	音	外	外	理	理	5	算	算	算	算	算	5	体	国	家	外	外	5	理	体	体	国	国
6	特	総	-	総	道	6	特	総	-	総	道	6	特	総	-	総	道	6	特	総	-	総	道

担任外の
E教員
⇒ 社会
(3時間×4学級)

⇒ 体育
(2時間×4学級)

担任A教員 ⇒ 理科(3時間×4学級)、家庭(2時間×4学級)
 担任B教員 ⇒ 外国語(2時間×4学級)、音楽(2時間×4学級)
 図工(1時間×4学級)
 担任C教員 ⇒ 国語(5時間×4学級)
 担任D教員 ⇒ 算数(5時間×4学級)

A教員						B教員						C教員						D教員						E教員					
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	
1	6-1	6-2	6-2	6-1	5-1	1	6-2	5-1	6-1	6-2	6-2	1	5-2	5-2	5-2	5-2	5-2	1						1	5-1	6-1	5-1	5-1	6-1
2	5-1	5-1	5-2	5-2	5-2	2		5-2	5-1	6-2	6-2	2	6-2	6-2	6-2			2	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	2	5-2			5-1	5-1
3				6-1	6-1	3	6-1	5-2	5-2	5-2		3	5-1	5-1	5-1	5-1	5-1	3	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2	3	5-2	6-1	6-1		5-2
4	5-2	5-2		6-2	6-2	4		6-1	5-2			4	6-1		6-1	6-1	6-1	4	5-1	5-1	5-1	5-1	5-1	4	6-2	6-2	6-2	5-2	5-2
5	6-2		6-1	5-1	5-1	5	5-1	5-1	5-1	6-1	6-1	5		6-1		6-2	6-2	5	5-2	5-2	5-2	5-2	5-2	5	6-1	6-2	6-2		
6	5-1	5-1	-	5-1	5-1	6	5-2	5-2	-	5-2	5-2	6	6-1	6-1	-	6-1	6-1	6	6-2	6-2	-	6-2	6-2	6			-		

※ 灰色のコマは空き時間を示す。
 ※ 日課表は参考であり、実際には、月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

- ◎ 担任の担当教科数が**6~8教科減少**します。※担任外教員を1名加えた場合。
- ◎ 担任の空き時間は**5時間**となります。※担任外教員を1名加えた場合。
- 担任外の教員を加えることで、教科数が減少し、空き時間もでき、教材研究の時間も確保できます。

【例4】学級担任間による単元の交換授業

単元のみでの交換授業を試行的に行う方法もあります。単元のみであれば、年度途中でも交換授業を導入でき、本格導入に向けた準備にもなります。

また、算数の図形領域の指導が得意、国語の説明文の指導が得意、といった個々の教員のもつ専門性も生かします。

ヒント

- ① 年間指導計画から、指導する時期と時数がほぼ同じ単元を見付ける。
- ② 交換が可能になるよう、時間割を調整する。
- ③ 担当教科を決める。【例】B教員は説明文の指導が得意なので、A教員が算数、B教員が国語を担当する。
- ④ 交換した単元の評価を行い、担任に渡す。

【例①】異学年間

指導月	5年(A教員)				6年(B教員)			
	算数		国語		算数		国語	
	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時
11月	わり算と分数	6	固有種が教えてくれること(説明文)	6	角柱と円柱の体積	6	『鳥獣戯画』を読む(説明文)	6
担当	A教員		B教員		A教員		B教員	

【例②】同一学年間

指導月	6年1組(A教員)				6年2組(B教員)			
	算数		国語		算数		国語	
	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時
11月	角柱と円柱の体積	6	『鳥獣戯画』を読む(説明文)	6	角柱と円柱の体積	6	『鳥獣戯画』を読む(説明文)	6
担当	A教員		B教員		A教員		B教員	

※ 算数は教育出版、国語は光村図書の年間指導計画を参考に作成。

(2) 学習指導や生徒指導の充実

① 学年部会の定例化

定期的に学級担任と関係教員で次週の計画や児童の学習状況を共有することが大切です。

特に児童の安全や生徒指導に関わる内容等については速やかに共有する必要があります。

5・6年合同部会も考えられます。



ヒント

- 曜日と時刻を決め、週に1回、学年部会を設定する。
- ノートの記述の仕方や発言の方法などの学習方法等、児童が混乱しないよう、指導方法を共有していく。
- 週指導計画に基づき、指導内容や宿題について、協議、調整する。
- 配慮を要する児童の共通理解や支援について検討する。

② 同じ教科担当者による打ち合わせや単元の指導計画の作成

例えば、5年生の国語を担当する教員と6年生の国語を担当する教員がいる場合、同じ教科担当者で教材研究を行ったり、単元の指導計画を作成したりすることで、5年生と6年生を見通した、より系統的な単元の指導計画の作成や学習指導ができます。

ヒント

- 時間割を作成する際、同じ教科担当者の空き時間が同じ時間帯になるよう工夫し、打合せ時間を確保する。
- 単元の指導計画、指導案、教材、学習プリント等、ファイルを共有し、同じ教科担当者の教材研究や学習指導に役立てる。

(3) 円滑な実施のための啓発

① PTAや地域との連携、授業公開の実施

小学校教科担任制を円滑に実施していくには、PTAや地域との連携が必要です。小学校教科担任制の目的や期待される効果を周知していくことはもちろん、授業公開等で積極的に担任間で授業交換をしている様子を見ていただくことも大切です。



ヒント

- 年度当初のPTA総会や学校だより等で、小学校教科担任制の目的や期待される効果を保護者や地域へ周知し、理解を得る。
- 学校評価等で定期的な評価を行う。
- 学校公開日等の機会に、積極的に交換授業を取り入れ、小学校教科担任制を啓発していく。

② 授業内容、宿題等、児童・保護者に周知

小学校教科担任制を円滑に実施していくには、小学校教科担任制の趣旨や具体的な方法等はもちろん、授業内容や宿題について、保護者と児童に分かりやすく周知していく工夫が必要です。



ヒント

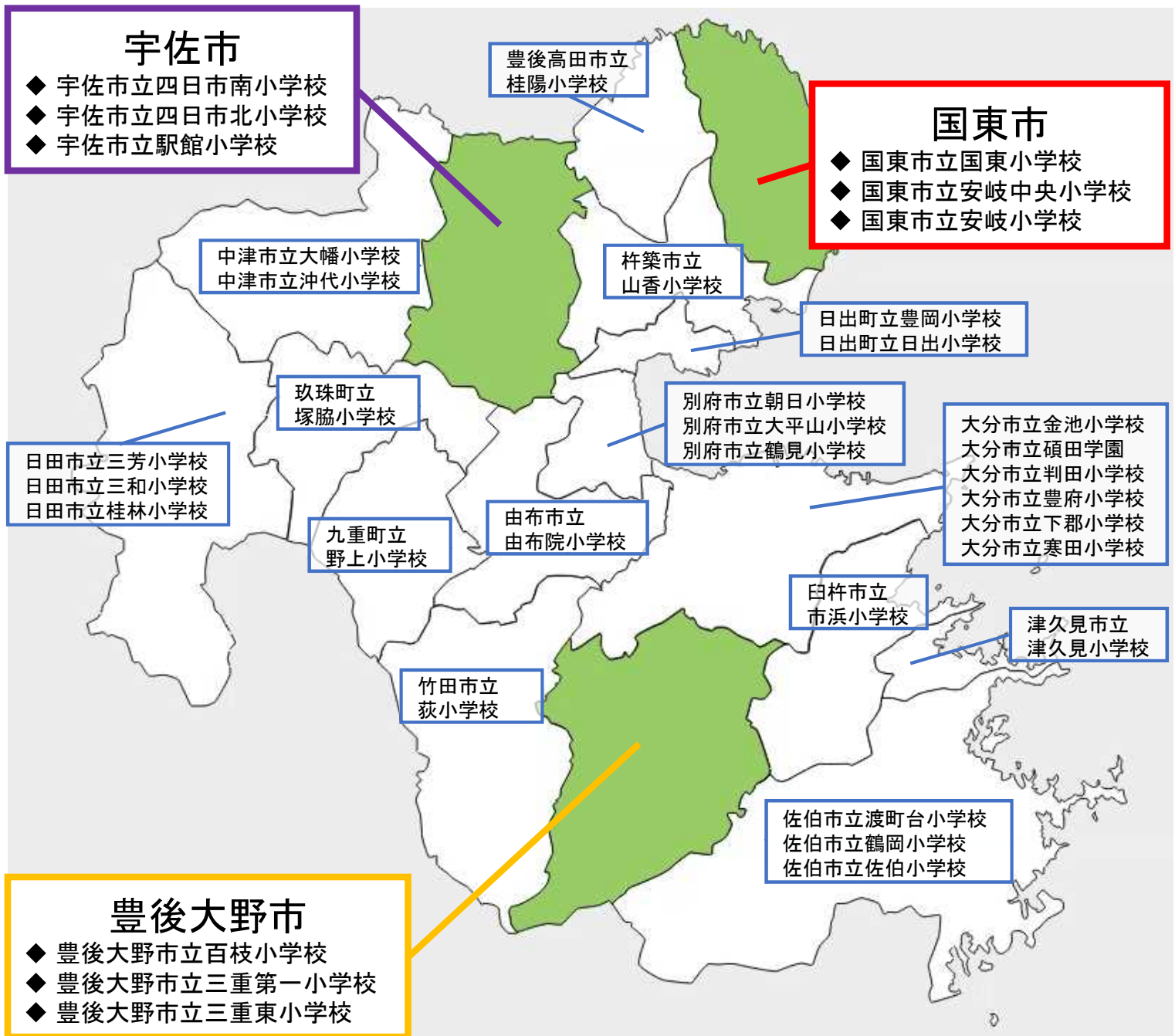
- 週の学習計画表等を作成して配付し、1週間の大まかな授業内容、持ち物や宿題等を確実に周知する。
- 教科担任の指導の下、各教科係が学習内容や宿題等を連絡黑板等に記入する。

5 教科担任制推進校及び推進教員配置校(令和3年度)

令和元年度から3年度まで、宇佐市、国東市、豊後大野市を小学校教科担任制推進地域に指定し、域内の9校を推進校に指定しました。

また、令和3年度は、推進教員を増員し、県内36校で教科担任制を推進してきました。

36校の実践で明らかになった成果や課題をまとめ、県内全ての小学校に発信し、教科担任制を推進しています。



6 推進校及び推進教員配置校の導入状況(令和3年度)

教科担任制推進教員配置校36校の導入の概要

①高学年における学級担任間の交換授業の実施状況

配置校	高学年 学級数	交換授業実施学級数 ※下段は実施率								
		国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
36校	159学級	86	108	67	48	34	57	31	32	25
		54%	68%	42%	30%	21%	36%	19%	20%	16%

◎学級担任間の交換授業を多く実施している学校(教科数)

- 宇佐市立四日市北小学校 (7教科)
- 大分市立判田小学校 (8教科)
- 佐伯市立佐伯小学校 (7教科)



②高学年学級担任による学年をまたいだ交換授業の実施状況

配置校	高学年 学級数	学年をまたいだ交換授業実施学級数 ※下段は実施率								
		国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
36校	159学級	20	20	9	3	4	5	0	11	7
		13%	13%	6%	2%	3%	3%	0%	7%	4%

◎学級担任による学年をまたいだ交換授業を多く実施している学校(教科)

- 国東市立安岐中央小学校(国語、社会、音楽、図工、体育)
- 津久見市立津久見小学校(国語、社会、図工、体育)
- 豊後大野市立百枝小学校(国語、算数、音楽、体育)

③5教科(国語、社会、算数、理科、外国語)の教科担任制の完全実施状況

配置校	高学年 学級数	5教科完全 実施学級数	実施率
36校	159学級	40学級	25%

※5教科完全実施学級数・・・5教科の教科担任全てが他の学級でも同教科を指導している学級数をカウント

◎5教科の教科担任制の完全実施校(第5・6学年で実施)

- 中津市立沖代小学校
- 宇佐市立駅館小学校
- 別府市立朝日小学校
- 臼杵市立市浜小学校
- 豊後大野市立百枝小学校

④高学年における教科担任制実施学級担任の担当教科数と週当たりの空き時間数

教科担任制実施 学級担任数	担当教科数 平均 ※学級担任のみ	空き時間数 週平均 ※学級担任のみ
140人	4.2教科	6.4時間

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く

◎学級担任一人当たりの担当教科数が少ない学校(教科数平均)

- 宇佐市立駅館小学校 (2教科)
- 臼杵市立市浜小学校(2.2教科)
- 佐伯市立鶴岡小学校 (2教科)
- 豊後大野市立三重第一小学校 (2.5教科)

教科担任制推進教員配置校の導入状況

「令和3年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に、推進校9校、推進教員配置校27校の教科担任制導入状況を作成しました。自校の規模に応じて、参考にしてください。

①教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

どの教科で学級担任間の交換授業が行われているかを示しています。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

①のような教科担任制を導入した結果、担当教科数がどれだけ減ったか、空き時間が週当たりどれほどできたかを示しています。

③日課表作成のポイント

日課表を作成する際に、各校がどのような工夫をしたかを示しています。

④円滑な導入へのポイント

教科担任制を円滑に導入するために、各校がどのような工夫をしたかを示しています。

中津市立沖代小学校の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	C	A	B	専科	A	専科	専科	A	A	6
5年2組	B先生					B			B		6
5年3組	C先生					C			C		6
6年1組	D先生	F	E	D	推進	E	推進	D	D	専科	5
6年2組	E先生							E	E		5
6年3組	F先生							F	F		5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	6
B先生	3	6
C先生	3	6
D先生	3	6
E先生	4	8
F先生	2	7
推 進	3	14

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

➤ 授業交換がしやすいように、各担任の担当する**教科の時間数を同じ**にした。

➤ 各担任の**希望や実践経験、専門性**を活かしながら決定できるように配慮した。

③日課表作成のポイント

- 特別支援学級在籍児童の授業体制や専科教員との調整に留意。
- 空き時間を7時間程度確保し、**教材研究**や**教材準備**、事務的業務を行うことができるよう配慮。

④円滑な導入へのポイント

- 授業中の児童の様子や配慮が必要な児童についての情報交換を頻繁に行うことで、**組織的な学習支援や生徒指導**につなげていく。
- 出張や行事を早めに把握して週単位で日課表の確認を行い、授業時数をそろえていく。
- 学習規律の共通理解。

中津市立大幡小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	A	A	専科	A	A	A	専科	専科	5
5年2組	B先生	B	B	A		B	B	B			5
5年3組	C先生	C	C	C		C	C	C			5
6年1組	D先生	D	D	推 進	専科	D	E	F	専科	専科	7
6年2組	E先生	E	E								7
6年3組	F先生	F	F								7

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 得意分野を考慮。
- 当該学年の児童の実態が分かる教員を配置。

③日課表作成のポイント

- 特別支援学級在籍の児童の授業体制。
- 専科教員(理科・体育・外国語)との調整。



②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	3※5年体育・外国語T2
B先生	5	3※5年体育・外国語T2
C先生	6	3※5年体育・外国語T2
D先生	3	3※6年算数・体育・外国語T2
E先生	3	3※6年算数・体育・外国語T2
F先生	3	3※6年算数・体育・外国語T2
推 進	1	7※4年算数

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

④円滑な導入へのポイント



- 教科担任を進めることで、勤務時間外の教材研究の時間が削減されるなど、働き方改革につながることを意識すること。
- 学年に関わる教員みんなで児童を指導するという意識をもつこと。
- 学習規律の共通理解。

豊後高田市立桂陽小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	専科	A	推 進	専科	B	A	専科	A	6
5年2組	B先生	B		A			C	B		A	6
6年	C先生	B	専科	C	推 進	専科	C	A	専科	A	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員の得意な教科を選択。
- 校長が、学校の経営方針の柱の一つとして、教科担任制を打ち出し、専科はもちろん、4年生以上の担任同士との交換による教科担任制を進めることをはっきりと教職員と共通理解を図り、決定。

③日課表作成のポイント

- 担任と専科のコマを抱き合わせたり、担任が交換して担当する教科のコマをそろえたりした。
- 県作成手引きにある先進校の取組を参考にした。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	4※5年体育T2
B先生	3	4※5年体育T2
C先生	2	4※6年理科・体育T2
推 進	1	4※3・4年理科・図工

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント



- 児童実態の共通理解を行うため、担任だけでなく高学年に関係する専科教員の席を近くにしました。
- 定期的に学年部での情報交換の場を設ける(進捗、週予定月予定等の確認、支援の必要な児童の対応等を行う)。
- 児童の情報交換を4月当初に行い、児童理解を共有した。

宇佐市立駅館小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	C	B	A	B	専科	専科	専科	A	専科	7
5年2組	B先生										7
5年3組	C先生										7
6年1組	推 進	推進	推進	D	D				高学年以外 の担任		6
6年2組	D先生								D		5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 若手教員とベテラン教員との**バランス**。
- 本人の希望と**教科免許**を優先して決定。
- 専科教員と教科担任との**バランス**に配慮。

③日課表作成のポイント

- 担任の1週間の**持ち時間を同じ**くらいにした。
- 特別教室を使用する関係で、理科や音楽、体育などは先に時間枠を決定。
- 特別支援学級や通級の児童の困りがないよう作成。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	5
B先生	2	8
C先生	1	8
推 進	2	7※4年国語
D先生	3	7

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制を行っている5・6年は、高学年部会を活用し、情報共有することを確認。
- 教科担任制に不安がある教員がいる場合は一人で抱え込むのではなく、**チーム**で対応。
- 専門性を深めるために、各種研修会や研究会等に参加しやすい体制を整える。

宇佐市立四日市北小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	B	専科	A	A	A	専科	A	4
5年2組	B先生					B				B	B
6年1組	C先生	D	C	専科	C	C	D	D		C	4
6年2組	D先生				D						D

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各担任などの**専門性が活かせる**ように学年担任・担当教科を決定する。
- 習熟の状況に課題が見られる場合は、**少人数指導**が実施できるようにする。
- 今年度は、**3・4年でも交換授業を実施**し、推進教員が培った交換授業のノウハウやメリットを広げる。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	5
B先生	4	5
C先生	4	6
D先生	4	6
推 進	1※2・3年算数	5

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 日課表は、**教務と推進教員が連携**して作成する。
- 週案は、学年部で立て、最終確認を教務と推進教員で行う。

④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制のよさや他校での取組、課題などについての研修を行う。
- **クロス集計(単元テスト等と教科の愛好度)**や**学力調査**の結果を踏まえた学習状況や生徒指導に関わることを学年部で共有するために、週1回学年部会をもつ。

宇佐市立四日市南小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	B	A	A	推 進	推 進	A	推 進	A	高学年以外 の担任	4
6年	B先生	B	B	A	推 進	推 進	B	B	A		4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 得意な教科を選択するよう留意。
- 時間数の平均化に留意。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	6
B先生	4	7※6年体育T2
推 進	3	7※6年国語・家庭科T2 5・6年外国語・書写T2

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 1時間目は担任の授業を行う。
- 準備が必要な教科は2時間続きにした。



④円滑な導入へのポイント

- 高学年教科担任制の日課表を優先してつくり、他学年と調整していった。

国東市立国東小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	B	A	推 進	A	専 科	A	推 進	A	A	4
6年	B先生	B	A	推 進	B	専 科	B	推 進	A	B	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 経験年数や専門性を考慮し、**担当したい教科**を出し合い決定。
- 授業担当教科、空き時間が**同程度**になるよう留意。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	7
B先生	4	9
推 進	2	9※4年算数T2

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 児童が落ち着く環境づくりのため、**週の始めと一日の終わり**は学級担任の授業を入れる。
- 国語、算数は**午前中の時間**に行えるようにする。
- 空き時間が曜日によって**偏らない**ようにする。



④円滑な導入へのポイント

- 授業者ごとに学習ルールに差がでないよう、**授業規律**等を共通理解。
- 日課表の確認と児童の様子を交流することを目的に、週に一度**高学年部会**を開くことを確認。

国東市立安岐小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	推 進 推 進	B	A	専 科 専 科	推 進	高学年以外 の担任	高学年以外 の担任	A	A	5
6年	B先生	推 進	B	A	専 科		B	B	B	B	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教科指導に関する**専門的知識・技能**を有していること。
- 児童の特性に応じた**生徒指導**等の児童理解に基づく学級経営能力に優れていること。
- 教科担任制の**趣旨を理解**し、積極的に取り組もうとする意欲があること。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	5
B先生	5	4
推 進	2	7※2年音楽

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 5年生の国・算・社・理は**2グループ**に分けて授業するようにした。
- 1時間目は、できる限り担任の教科を入れた。
- 特別支援学級の日課表をできる限り考慮。
- 教員の**指導時間数**ができる限り同じになるように考慮。



④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制の**目的や方法**について共通理解。
- 毎週**火曜日**の**学年部会**で話す内容についての確認。
- 生徒指導関係の共通理解。



国東市立安岐中央小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	A	B	推 進	専 科	A	B	推 進	B	A	4
6年	B先生	A A								B	A

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 時数調整も複雑で、**特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員との調整**もあり、何度も訂正をして組み合わせた。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	7
B先生	4	7
推 進	2	10

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 38人いる6年生を2クラスに分け、**国語と算数**で**少人数指導**をすることができるように日課表を組んで、一人ひとりの理解度を把握しやすくした。



④円滑な導入へのポイント

- 複雑な日課表になるので、**前の週の火曜日**に**高学年部会**をして、行事や出張等の変更を調整し合うことにした。



杵築市立山香小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	推 進	C	B	A	A	A	A	A	A	4
6年1組	B先生					B	B	推 進	B	C	4
6年2組	C先生					C	C		C		4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 高学年教員の異動がなかったため、昨年度の実績を踏まえ、取組を**継承・深化**できるよう、担当する教科を継続。

③日課表作成のポイント

- 月曜1限目は全クラスとも**学活**とし、場合によっては**高学年合同での指導**が可能となるよう工夫。
- 他の曜日にも**1限目が担任の授業**になるよう配慮。
- 空き時間が**特定の曜日に集中しない**よう配慮。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	7
B先生	4	6
C先生	5	6
推 進	2	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント



- 職員会議後、**定期的**に高学年部会を実施。
- 授業中の児童の様子で気になることがあった時には、**随時情報交流**を実施。
- 高学年通信を作成し、保護者に**教科の進度**や**準備物**を周知。
- 高学年通信を**中学校にも送付**し、小中の交流を促進。

日出町立豊岡小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	専 科	B	B	A	A	専 科	5
5年2組	B先生	B						B	B		5
6年1組	C先生	C	D					C	C		D
6年2組	D先生			D	D	D	5				

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各教科の**得意分野**が担当できるように留意した。
- 学級担任の持ち時間が同じくらいになるようにした。

③日課表作成のポイント

- 推進と専科の授業のコマを優先的に決定。
- 理科は**2時間続き**で授業ができるように日課表を作成。
- 支援学級との日課表調整。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	10
B先生	5	10
C先生	4	10
D先生	5	10
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント



- 教科担任制を円滑に推進するために、**全教職員で日課表を作成**。
- 学習スタンダード(きまり)やノートの書き方を**全学年で共通理解**。
- 毎週火曜日に**学年部会**を開き、学習内容や生活指導上の共通理解が必要な児童の情報交換。

日出町立日出小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	B	A	A	A	A	専 科	4
5年2組	B先生	B				B	B	B	4		
6年1組	C先生	C	C			C	C	4			
6年2組	D先生	D	C			D	D	4			

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 国語、社会、算数、理科、外国語の中から選択。
- 交換可能**時数**の検討。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	7
B先生	6	7
C先生	6	7
D先生	6	7
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 学級担任の**持ち時間が同じ**になるように計画。
- 特別教室の使用時間。
- 特別支援学級との調整。

④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制のねらいの共通理解。
- 児童や保護者への説明(**教科担任制の進め方と教科担任制の利点**)。



別府市立朝日小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	C	B	A	推 進	専 科	B	A	A	専 科	6
5年2組	B先生							B	B		6
5年3組	C先生		C	C				6			
6年1組	D先生	E	F	D			F	推 進	D		6
6年2組	E先生				E	E	6				
6年3組	F先生				F	F	6				

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教職員の**経験**や**得意な教科**を優先させて教科を決定。

③日課表作成のポイント

- 理科や家庭科など、**実習を伴う教科**については、**2時間****続き**で授業ができるよう工夫。



②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	6
B先生	4	8
C先生	3	6
D先生	2	7
E先生	2	7
F先生	3	8
推 進	2	6

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

④円滑な導入へのポイント

- 職員間で、**教科担任制のねらいや意義**を共通理解。
- 教科担任間で、**学習のきまり**の確認、**授業の進め方**など、打ち合わせを実施。



別府市立鶴見小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	A	A	推 進	専 科	A	A	B	A	4
5年2組	B先生	B	B	A			B	B	B	A	4
6年1組	C先生	D	C	C	C		C	C	C	4	
6年2組	D先生	D	D	C	D		D	D	D	4	

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 持ち時間や空き時間等が偏らないこと。
- 各々の**専門性が活かせる**ようにすること。
- 理科は準備、片付けなどに時間がかかるため、**推進**が行うこと。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	5※5年算数T2、4年体育
B先生	5	5
C先生	6	5
D先生	6	5
推 進	1	11※3・4年理科

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 教科が特定の日に**偏らない**ようにすること。
- 学校全体の専科や特別教室の時間配置を考慮したこと。

④円滑な導入へのポイント

- 週一回以上、学年部で**教科の進捗状況やクラスの様子**について話し合いを実施。
- 学年間で**教科の成績や評価を共有**。
- 週末課題等、**宿題を統一**。



別府市立大平山小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	B	A	A	A	A	専 科	5
5年2組	B先生	B	A		B	B	B	B	B		5
6年1組	C先生	C	D	C	C	C	C	C	5		
6年2組	D先生	D	D	C	D	D	D	D	5		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各担当が**教材研究や教具作成等の時間を確保**できるように配慮。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	8
B先生	6	8
C先生	6	8
D先生	6	8
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 教科担任制推進教員は同じ授業内容を2時間するので、2時間目は教員の発問等の修正などができることを考え、**片方の組が1時間目ばかりにならない**よう配慮。

④円滑な導入へのポイント

- 児童の**学習や生活の様子**を情報交換し、**学級と連携**することで効果的な指導ができるようにしている。



大分市立碩田学園 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	B	A	A	専科	専科	A	専科	A	推進	6
6年2組	B先生	B	A	B			B		6		
6年3組	C先生	D	C	C			C		6		
6年4組	D先生	D	C	D			D		6		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 得意な教科を中心に選択。
- 週当たりの担当時数が同じになるように配慮。
- 学習内容に応じて国語で**一部教科担任制**を導入。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	8
B先生	4	8
C先生	4	8
D先生	4	8
推 進	1	9 ※3・4年外国語活動 5年外国語

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 専科、特別教室の時間を確認し、交換授業の時間を決定。
- 算数の時間を4クラスそろえ、**習熟度別授業**を実施。
- 学校・学年行事、新型コロナウイルス対応等による変更に合わせて、**週案を柔軟に見直し**対応。

④円滑な導入へのポイント



- 教科担任制の**意義・目的**を確認。
- 毎週の週案を学年部会で確認。
- 児童が授業を受けるときの**きまり**(あいさつ・ノートの使い方、発表の仕方等)を統一。

大分市立金池小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	A	A	B	専科	専科	A	B	A	推進	5
6年2組	B先生	A	B	B			A	B	5		
6年3組	C先生	C	C	D			D	C	5		
6年4組	D先生	C	D	D			C	D	5		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 授業時数が同等の教科(国・算)、準備に時間がかかるもの(図工・家庭科)を2クラスごとに交換で授業を行う。
- 交換クラスは**隣同士で行い**体育も合同で行う(児童の情報交換がしやすいため)。
- クラス担任の配置は年齢・性別を考慮。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	7
B先生	4	7
C先生	4	7
D先生	4	7
推 進	1	12

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 図工や家庭科等、製作・実習で**2時間続きの時数が確保しやすい**ように2時間続きの交換授業。
- 6年部の時間変更がしやすいように変更可能な特別教室等の枠を先に設定。
- 専科を**週の前半と後半でまとめる**(前半:外国語・音楽、後半:理科)。
- 可能な限り**1時間目は担任の授業又は専科においても空き時間**として、児童の指導に対応できるように設定。

④円滑な導入へのポイント



- 4月のスタート前に、関係教員全員で打ち合わせ(**日課表の運営について・学習ルール・宿題・持ち物**等)。
- 運動会や水泳の時期は体育が変則的になるため、**先に専科教員で日課表を作成**し、学級担任が交換授業を決定。
- 児童の実態を考慮し、運動会終了後からの教科担任制スタート。

大分市立判田小学校 の導入状況

① 高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	C	A	推 進	B	B	C	C	A	4
5年2組	B先生										4
5年3組	C先生										4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 研究授業の教科を授業者が担当できるようにした。

③ 日課表作成のポイント

- 時数が均等になるように気を付けた。

② 担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	4
B先生	3	2
C先生	3	3
推 進	1	8※6年理科

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④ 円滑な導入へのポイント

- 毎週学年部としての週案を作成している。



大分市立豊府小学校 の導入状況

① 高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	C	A	B	専 科	A	A	A	推 進	5
5年2組	B先生	B		B					B		5
5年3組	C先生	C		C					C		5
5年4組	D先生	D	D	D	E		D	D	D		4
5年5組	E先生	E		E			E	4			
6年1組	F先生	F		F			F	4			
6年2組	G先生	G	G	G	F		G	G	G		4
6年3組	H先生	H		H			H	4			
6年4組	I先生	I		I			I	4			

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 高学年は専科担当することを事前に職員に知らせた。

③ 日課表作成のポイント

- 5・6年が重ならないよう特別教室の割り振りをした。

④ 円滑な導入へのポイント

- 隔週で日課表を組んでいる。
- 2週に一度打ち合わせをしている。
- 奇数クラスの場合、日課表が組みにくい。



② 担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	4
B先生	4	4
C先生	4	4
D先生	6	4
E先生	6	4
F先生	6	5
G先生	6	5
H先生	6	5
I先生	6	5
推 進	2	7

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



大分市立下郡小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	A	A	B	専科	専科	A	A	A	推 進	5
6年2組	B先生	A	B	B			B	B	5		
6年3組	C先生	C	C	C			C	C	5		
6年4組	D先生	C	D	D			D	D	5		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教科指導を効果的に実施できる教科に重点を置いて決定した。

③日課表作成のポイント

- 年度当初の時間割作成で固定して教科を入れる時間を確保した。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	7
B先生	5	7
C先生	5	7
D先生	5	7
推 進	1	8※3・4年外国語活動

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- できる限り会議は簡潔に提案する。開始時刻・終了時刻等の時間を守る。
- 連絡を簡潔にする。互いに声を掛け合う。共通理解を図るために情報共有を必ず行う。



大分市立寒田小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	C	A	推 進	A	A	A	A	専科	5
5年2組	B先生			B		B			B		5
5年3組	C先生			C		C			C		5
6年1組	D先生	E	D	F		E	D	D	D		5
6年2組	E先生				E	E	E	5			
6年3組	F先生				F	F	F	5			

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員間の授業時数の平準化を図った。
- 教員の週当たりの空き時間の増を目指した。

③日課表作成のポイント

- 全校的な協力体制が必要(運動場・体育館・特別教室等)。
- 計画策定にあたっては、6年生を優先させて計画する。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	7
B先生	4	4
C先生	4	7
D先生	4	7
E先生	4	4
F先生	3	7
推 進	1	2※4年理科

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 全教職員の理解が必要。状況によっては、他学年の教員の協力を得ることが考えられる。
- 予め保護者への説明をしておく必要がある。4月の学級懇談会で説明し、イメージをもってもらおう。



白杵市立市浜小学校 の導入状況

① 高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	C	専科	専科	A	専科	専科	専科	8
5年2組	B先生	A・B(1h)					8				
5年3組	C先生	A・B(1h)	専科	専科	専科	専科	専科	専科	専科	9	
6年1組	D先生	D	D	E	専科	E	E	専科	専科	専科	6
6年2組	E先生										6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 担当教科は、それぞれの**教員の得意(希望)教科**を聞きながら、話し合って決定。
- 空き時間数が**同程度**になるよう配慮。
- 算数は、**習熟度別指導**を実施。

② 担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	6※5年体育・外国語T2
B先生	3	7※5年体育・外国語T2
C先生	1	5※5年体育・外国語T2
D先生	2	4※6年体育・外国語T2
E先生	3	5※6年体育・外国語T2
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③ 日課表作成のポイント

- 同学年の**学活と総合的な学習の時間**は同じ時間に配置。
- 1時間目になるべく**担任の教科**を入れ、6時間目の国・算を避ける。
- 家庭科は2時間続きで配置。

④ 円滑な導入へのポイント

- 教室移動の時間確保のために、授業間に**10分の休憩時間**を入れた校時表に変更。
- 高学年の児童には**オリエンテーション**、保護者には**文書**で年度当初に周知。
- 職員室に1週間の時間割表を**拡大掲示**し、教員の所在を確認。



津久見市立津久見小学校 の導入状況

① 高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数	
5年1組	A先生	B	C	A	専科	推 進	B	C	推 進	A	専科	5
5年2組	B先生			5								
6年	C先生	C	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各教員の**得意な教科**を授業に活かせるように配慮した。
- 5・6年生をまたいだ交換授業により、児童を**複数の教職員で見守り、支援**できる体制とした。
- 分掌等、業務に**偏りが生じない**ように授業時数を調整した。
- 外国語教育の充実を図るため、専科教員に加えて推進教員や担任が入るようにした。

② 担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	7※5年外国語T2
B先生	3	6※5年外国語T2
C先生	3	5
推 進	5	6※6年外国語T2

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③ 日課表作成のポイント

- 5・6年生の算数については、**習熟度別指導**ができるように調整した。
- 可能な限り、国語・算数は**午前中**になるよう計画した。

④ 円滑な導入へのポイント

- 授業の前後の挨拶、学習のルールや用具等を統一し、**どのクラスでも同じように授業が進められる**ようにした。
- 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」などノートの書き方、使う色を統一し、**板書の仕方を共通理解**した。
- 教科の係をクラスごとに決めて、**教科の係が持ち物や課題の確認**に来るようにした。



由布市立由布院小学校の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	推 進	A	A	B	A	A	A	専 科	A	4
5年2組	B先生			B		B	B	B			
6年1組	C先生		C	C	D	C	C	C		C	4
6年2組	D先生			D		D	D	D		D	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

※算数は、指導法工夫改善加配による習熟度別指導を実施

- 教員の得意教科や専門性を考慮して分担。
- 各教員の負担が偏らないように決定。
- 本校は英語専科もいるが、英語教育推進校のため、担任がT1を行っている。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	7
B先生	6	7
C先生	6	7
D先生	6	7
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 算数は習熟度別指導ができるよう、日課表を作成。
- 各教員の担当教科数や週当たりの空き時間が均等になるよう作成。

④円滑な導入へのポイント

- 年度当初、教科担任制の説明を文書にてお知らせ。
- 「由布院スタンダード」という学習規律を作成し、どの教科・どの先生でも同じ指導ができるように工夫。
- 学年会等で日常的に情報交換を行う。

佐伯市立渡町台小学校の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	A	推 進	A	B	A	C	専 科	6
5年2組	B先生	B		B							B
5年3組	C先生	C	C	C		D	D	D	D		6
6年1組	D先生	D	D	D		F	F	E	E		6
6年2組	E先生	E		E	E					E	E
6年3組	F先生	F		F	F	F	F	F	F	6	

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 担任同士で話し合い、可能な限り得意分野を生かした。
- 算数は、担任と専科教員が学級を2つに分けて指導することにより、少人数指導に取り組むことにした。
- 担任の受け持つ時数が均等になるように上記以外の教科も含めて分担した。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	5
B先生	4	5
C先生	4	5
D先生	4	5
E先生	4	5
F先生	5	5
推 進	1	11

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 体育や音楽等、特別教室や限られた場所を利用する教科を先に日課表に位置付けた。
- 専科教員の指導が可能になるよう、学級ごとに教科をずらすようにした。

④円滑な導入へのポイント

- 出張や年休等による急な日課表の変更が難しいため、変更の際には管理職を含む全教職員で対応することを確認した。

佐伯市立鶴岡小学校 の導入状況

① 高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	C	A	推 進	B	専 科	C	B	A	専 科	6
6年2組	B先生										6
6年3組	C先生										6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 担任の個性、得意分野を生かした学年部を組織化。
- 若手教員の**人材育成の観点**。

③ 日課表作成のポイント

- 他校兼務の教員の授業枠の固定。
- 教科担任制推進教員、専科教員を優先した**特別教室の時間割**を先に確定。
- 教科の担当が**1回目に行う授業を1つの学級に固定しない**ように配慮。

② 担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	8
B先生	2	11
C先生	2	5
推 進	1	9※5年算数T2

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④ 円滑な導入へのポイント

- 授業規律の統一及び**新大分スタンダード**の再確認。
- 教材研究、授業研究及び授業準備の**時間の確保**。
- 次週の日課表の作成についての**学年部会を毎週火曜日**に開催することの確認。



佐伯市立佐伯小学校 の導入状況

① 高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	推 進	A	B	A	高学年以外 の担任	A	A	4
5年2組	B先生	B					B		B		4
6年1組	C先生	C	C		D	専 科	D	D	C	C	4
6年2組	D先生	D		4							

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 職員配置の**全体的なバランス**を考慮。

③ 日課表作成のポイント

- 休み時間が5分間のため、**教室移動が続かない**ようにした。
- 特別支援学級との関係で、**交流学級で授業を受ける時間**を先に決めて日課表を組んだ。

② 担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	6
B先生	5	6
C先生	4	9
D先生	4	14
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④ 円滑な導入へのポイント

- 気になる点やがんばり、よさ等、児童についての**情報交換を積極的**に行う。



竹田市立荻小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	B	A	A	推 進	推 進	A	A	A	A	3
6年	B先生	B	A	B			B	B	B	A	3

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員の**専門性**も可能な限り考慮する。
- 通常学級で教科担任制を実施することで、特別支援学級の授業に支障をきたさないようにする。
- 授業時数になるべく**偏りが少なくなる**ようにする。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	4
B先生	5	4
推 進	3	9※5年算数T2

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 第3学年から交換授業を行えるように、日課表を組む。
- 理科の準備ができるような時間を確保する。
- 交換授業の前は、**移動時間等を確保しやすい校時**で日課表を組む。

④円滑な導入へのポイント



- 県作成の手引きをもとに取組の目的等の理解を図った。
- 教科担任制推進教員が日課表の案を事前に配布し、調整を行う。
- 授業規律等**最低限のルール**を共通理解する。
- 学級の様子や授業の進捗等の**定期的な情報交換**を実施する。それにより**教科等横断的な視点からの授業**が確実に実施できるようにする。

豊後大野市立三重第一小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	C	B	専科 A	推 進	専 科	A	専 科	専 科	A	8
5年2組	B先生			専科 B			B			8	
6年1組	C先生			専科 C			C			9	
6年2組	D先生			専科 D			D			9	

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各担任の希望や**専門性**を考慮して決定。
- 各担任の**コマ数が同じ**になるように担当教科を決定。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	8
B先生	2	8
C先生	2	10
D先生	3	8
推 進	1	16

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 各担任の**空き時間が偏らない**ように編成。
- 極力、**同一学年の同一教科が同じ日**になるように編成。
- 月曜日の1校時と1日の終わりの時間は学級担任の授業になるように編成。



④円滑な導入へのポイント



- 昨年度まで週に1度行っていた「日課表編成会議」を廃止し、**教材研究の時間を確保**。
- 日課表は、推進教員が**2週先**の予定を提示し、調整をおこない決定。
- 日課表変更の都度、最新の日課表を関係者に配布し、徹底。
- 児童の情報交換については、水曜日の**学年部会**の時間に実施。

豊後大野市立三重東小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	A	A	推 進	A	A	A	A	専 科	4
5年2組	B先生		B			B	B	B	4		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教科担任制を念頭に、国語、算数等4教科が担当できる人を充てる。
- 理科は、予備実験や準備に時間がかかるため、推進教員を充てる。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	6
B先生	6	6
推 進	1	8※5年算数T2、6年理科

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 教科担任制をスムーズに行えるようにするため、音楽、理科室等特別教室を使う高学年の日課表作成を優先し、他学年はそのあとに作成。



④円滑な導入へのポイント

- 本校における教科担任制(高学年)のシステムを提示し、これに則って校内人事等を行うことを確認。

豊後大野市立百枝小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	A	専 科	B	推 進	A	A	専 科	B	専 科	5
6年	B先生						B				5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 主要教科が教科担任制の柱になることを前提として、話し合いを進めた。
- 担任が決定した後に受け持つ教科を何にするか、担任の気持ちを尊重して決定した。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	8
B先生	3	8
推 進	1	8※5・6年算数T2、4年理科

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 特別教室(理科室・音楽室・家庭科室)については、教科担任制を優先して位置付けた。
- 5・6年の交換する教科が連続しないように配慮。
- 教材研究の時間が一日に1時間以上取れるように配慮。



④円滑な導入へのポイント

- 特別教室の使用については、教科担任制を優先してもらうよう協力を願った。
- 決定事項を職員会議で共通理解した。

日田市立三芳小学校の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	B	A	A	専 科	A	専 科	5
5年2組	B先生	B				B	B		B		5
6年1組	C先生	C	C		C	C	C		5		
6年2組	D先生	D			D	D	D		5		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員の資質・能力(専門性)や経験年数・男女等のバランスを考慮して、担任・担当を決定する。
- 授業担当時間、空き時間が同程度になるよう配慮。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	9
B先生	5	9
C先生	5	9
D先生	5	9
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 国語、算数は、可能な限り午前中に入れるように配慮。
- 5・6年の社会・理科が学級担任による交換授業が行えるように配慮。

④円滑な導入へのポイント



- 「新大分スタンダードに基づく授業の徹底」、「学習規律・学習用具」についての共通理解。
- 推進教員や専科教員と学級担任との連携の在り方について確認。
- 3・4年生も可能な限り交換授業を行い、高学年からの教科担任制に向けた素地づくり。

日田市立三和小学校の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	推 進	A	A	A	専 科	A	A	4
5年2組	B先生	B				B	B		B	4	
6年1組	C先生	C	C		D	C	C		D	C	4
6年2組	D先生	D				D	D			D	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 時数が多く日常生活や他教科との関連性が最も高い国語科は学級担任による指導とした。
- 学年部(2学級)は、ベテランと若手のペアになるよう配慮し、学級づくりや教科指導についての相談体制が機能するよう工夫した。
- 校務分掌の量が多くなりがちの高学年担任について、教材研究や事務作業の時間確保のため、持ち時間・持ち教科数を少なくした。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	7※5年算数T2
B先生	6	7※5年算数T2
C先生	5	7※6年算数T2
D先生	5	7※6年算数T2
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 隣接学級と「理科」「社会」「音楽」「体育」等で交換授業が組めるようにした。
- 授業準備がスムーズにいくよう、同学年の同一教科を2時間連続にするようにした。

④円滑な導入へのポイント



- 専科授業の際は、学級担任は、隣接学級の担任との打ち合わせや教材研究や事務処理を行う。
- 専科教員の要請により、学級担任がT2として授業見取り時の採点をしたり、専科教員による授業を参観することで、自らの指導方法の工夫改善をしたりすることもできる。
- 専科教員が出張等で不在の場合は、学級担任が教科を入れ替えて授業を行い、教育課程の円滑な遂行を図る。

日田市立桂林小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	B	A	A	A	A	専 科	4
5年2組	B先生	B				B	B	B	B		4
6年1組	C先生	C	D		C	C	C	C	C		4
6年2組	D先生	D				D	D	D	D		4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 担任の希望や得意分野を活かして配置した。

③日課表作成のポイント

- 教科担任制推進教員と専科教員の授業を優先して日課表を作成した。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	7
B先生	6	7
C先生	6	7
D先生	6	7
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 全体会議で教科担任制推進教員の役割について共通理解を図った。
- 週1回の学年部会で児童の様子について情報交換を行っている。



玖珠町立塚脇小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	A	A	推 進	専 科	A	専 科	A	専 科	5
5年2組	B先生		B				B		B		5
6年1組	C先生	C	C	D			C		C		5
6年2組	D先生		D				D		D		5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 学級担任の希望を優先して担当教科を決定した。
- 空き時間が偏らないように交換授業を行った。

③日課表作成のポイント

- 優先順位を決め、交換授業を行う高学年から日課表を決めていき、下学年に調整をお願いした。
- 交換授業は、日課表の同じ時間に行った。
- 他学級でも1時間目を時間通りに始められるよう、校時表の確認をした。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	8
B先生	4	8
C先生	4	8
D先生	4	8
推 進	1	10※4年理科

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制連絡会議を持ち、共通理解を図った。



九重町立野上小学校 の導入状況

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	A	B	A	推 進	推 進	A	A	A	A	3
6年	B先生	B	B	B			B	B	B		3

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各担任の**専門性(資質・能力)**を活かせる教科を選択し決定した。
- 担任の交換授業時間数が同じになるように留意した。

③日課表作成のポイント

- 「専科」→「推進」→「5・6年交換」「特別支援学級」→「支援体制」→「他の学年・教科」の順に決定した。
- 「理科」の前にできるだけ**空き時間**をつくり、実験準備等に使えるようにした。
- 3・4年理科も専科指導とすることで、**高学年の教科担任制へ繋がる**ように配慮した。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	5
B先生	6	5
推 進	2	7 ※3・4年理科・音楽、 3年国語・算数(各1h)

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント











- 教科担任制の**導入の目的**やこれまでの**他校における成果**等について研修・共通理解した。
- 学習のきまり(学習用具・ノート・あいさつ・話し方・聞き方など)の共通理解をした。
- 生徒指導に関することは、常に情報交換を行うことを確認した。



7 教科担任制推進の成果と課題

推進校で実施した質問紙調査結果の推移

対象児童：小学校教科担任制推進3地域9校の第5・6学年 約800名

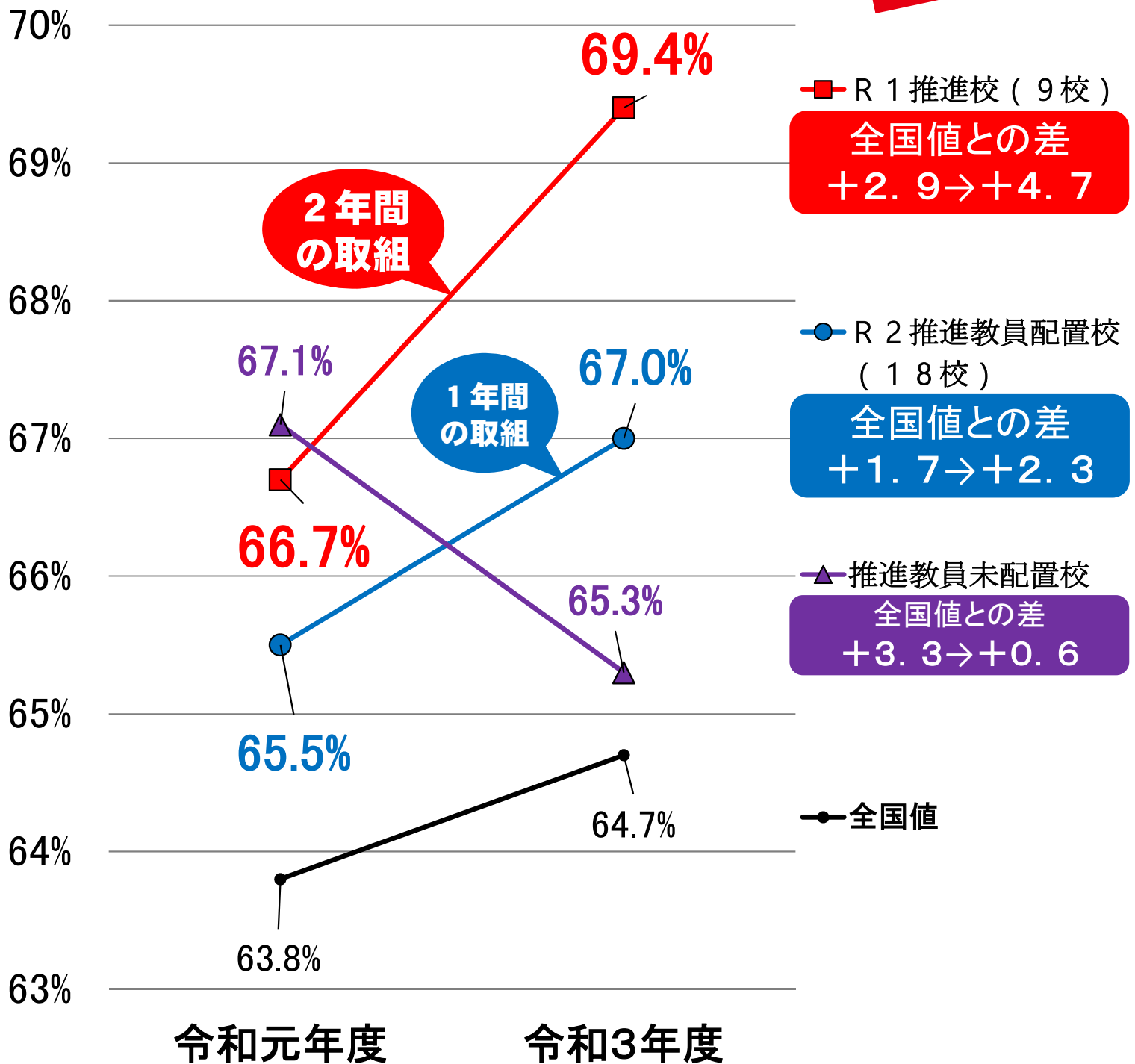
質問内容	肯定的回答の割合		H31 4月⇒R3 10月	R3年度 県全体の 調査結果
	H31 4月	R3 10月		
 国語が好き	65.3%	78.1%	↑12.8%	60.1%
 国語が分かる	84.8%	93.8%	↑9.0%	88.2%
 算数が好き	71.0%	81.1%	↑10.1%	62.8%
 算数が分かる	82.6%	91.8%	↑9.2%	83.3%
 社会が好き	70.7%	77.9%	↑7.2%	55.3%
 社会が分かる	86.6%	90.8%	↑4.2%	83.6%
 理科が好き	85.4%	85.2%	↓0.2%	75.2%
 理科が分かる	92.6%	94.7%	↑2.1%	88.2%
 外国語(活動)が好き	79.4%	79.4%	0.0%	65.0%
 外国語(活動)が分かる	83.8%	85.8%	↑2.0%	※質問項目なし
自分から進んで学習に取り組んでいる	75.1%	86.8%	↑11.7%	78.3%
教科担任制はよい	89.3% ※R2.6月	93.9%	↑4.6%	※質問項目なし

参考

- 特に、学級担任間の交換授業が進んだ国語、算数、社会において、「好き」、「分かる」と回答した児童が増えています。
- 自分から進んで学習に取り組んでいると回答した児童が増えています。
- 多くの児童が、教科担任制を肯定的に評価しています。

国語の平均正答率

※小数値による比較

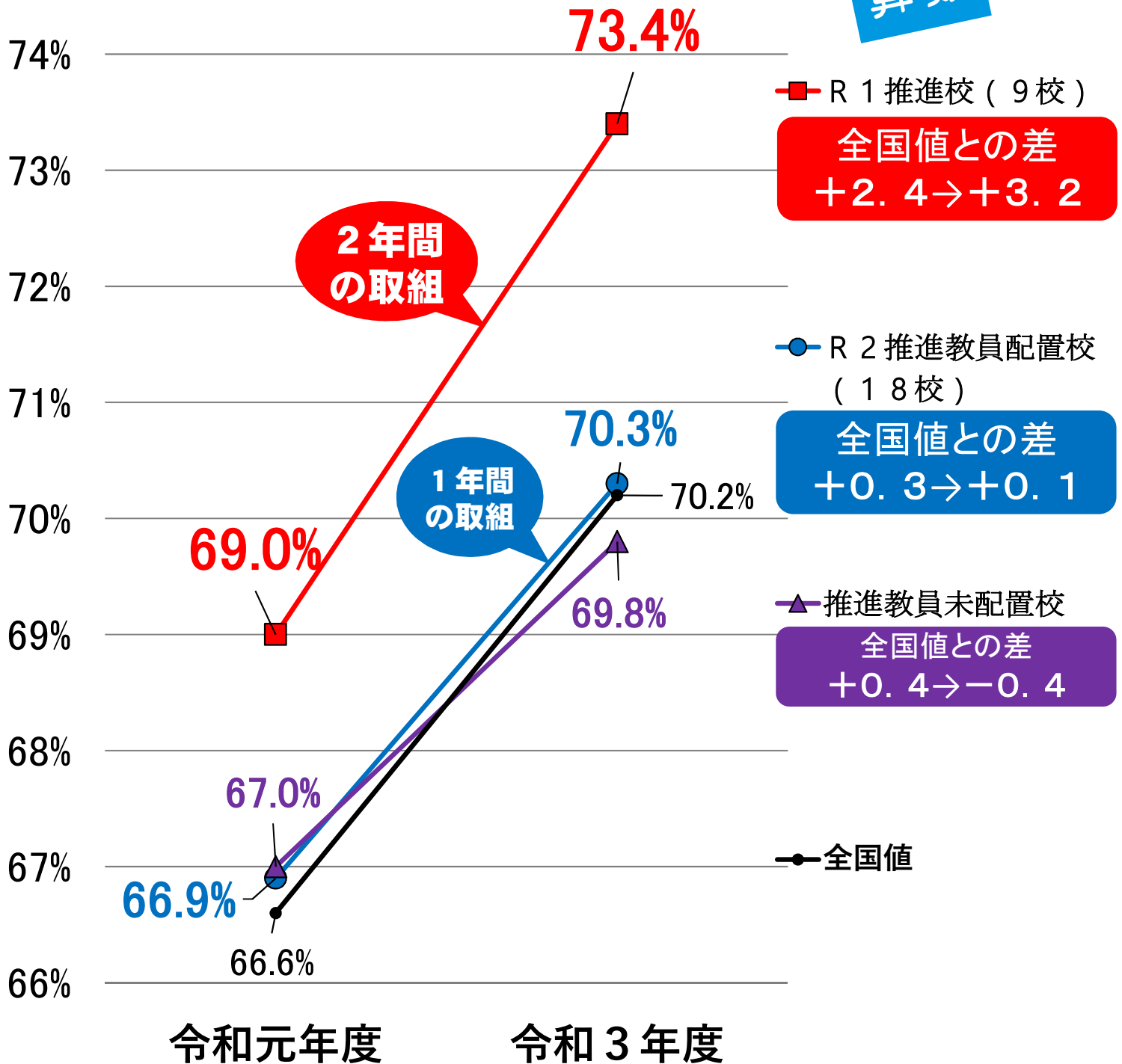


- 令和元年度から2年間、教科担任制の取組を行った推進校は、全国値との差を+2.9Pから+4.7Pに広げています。
- 令和2年度から1年間、教科担任制の取組を行った推進教員配置校は、全国値との差を+1.7Pから+2.3Pに広げています。

算数の平均正答率



※小数値による比較



- 令和元年度から2年間、教科担任制の取組を行った推進校は、全国値との差を+2.4Pから+3.2Pに広げています。
- 令和2年度から1年間、教科担任制の取組を行った推進教員配置校は、全国値との差が+0.3Pから+0.1Pに縮まっていますが、全国値を上回っています。

教科担任制推進教員から出された成果と課題

小学校教科担任制推進教員協議会より

1 推進教員から出された成果

児童にとって

- **いろいろな先生**と勉強ができて楽しいと回答する児童が多い。
- **算数や国語の授業が好き**とアンケートに回答する児童が増えた。
- 学習意欲が増したことにより、わからないところを**質問する児童**が増えた。

教員にとって

- 5・6年の**学習の系統的なつながり**を意識して教材研究や指導ができた。
- 教材研究や教材の準備をする教科が減り、担当教科の**準備に専念**できた。
- **ICTを活用した教材準備**をすることができ、児童の意欲向上につながった。
- 教材研究の時間を確保でき、**専門性の向上**を図れた。

2 推進教員から出された課題とその解決策

▲ 日課表の作成に時間と労力がかかる。

○ **日課表をデータ化**して調整時間を減らしたり、**学年会を定例化**し、次週の日課表を早めに調整したりした。

▲ 生徒指導面で、**個に向き合う時間**が限られ、寄り添うことも限られてしまいがちである。

○ 学年部で指導ができるよう、児童の学習や生活の様子等について、**定期的に情報交換**を行った。

▲ **初任の教員**にとって、担当をしない教科があるのは不安である。

○ 空き時間に**担当外の教科**の授業を見たり、3年間で全ての教科を担当できるよう、**校内で配慮**したりする。

▲ 少数だが、教科担任制を**否定的**にとらえている保護者に理解を得ていく必要がある。

○ 教科担任制の授業を**PTAや学校開放日**などに積極的に参観してもらうことで、保護者や地域の方にそのよさを伝えた。

教科担任制推進校の成果と課題(まとめ)



宇佐市立駅館小学校 の成果と課題 39ページ

宇佐市立四日市北小学校 の成果と課題 40ページ

宇佐市立四日市南小学校 の成果と課題 42ページ

国東市立国東小学校 の成果と課題 43ページ

国東市立安岐小学校 の成果と課題 44ページ

国東市立安岐中央小学校 の成果と課題 46ページ

豊後大野市立三重第一小学校 の成果と課題 47ページ

豊後大野市立三重東小学校 の成果と課題 48ページ

豊後大野市立百枝小学校 の成果と課題 49ページ

「小学校教科担任制」導入の成果と課題(宇佐市立駅館小学校)

1 学習指導の充実

■専門性を活かした授業改善

- ・教科担任を決める際には、教員の専門性を活かした配置になるようにする。
- ・4月に学年ごとにオリエンテーションを開き、学習の約束を共通理解させる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指し、校内研究会や授業公開(PTA等)では教科担任の授業を公開する。

■協働的な学習指導

- ・学年部会では、児童の学習状況を情報交換し、指導に活かす。
- ・高学年の中で教科部会を設定し、同じ教科で授業実践の意見交換をしたり、授業をする上での悩みを共有したりして解決できるようにする。
- ・教科部会で、指導案作りの相談をする。

成果と課題

- ◎現6年生の5年時からの推移を見ると、各教科の内容の理解に対する肯定値が全て上昇した。(外国語は、14.9P増加、国語は、12.1P増加)
- ◎「各教科の授業は好きですか」の質問に対する「いいえ」の割合が全教科で大きく減少した。(国語・社会は、10.2P減少)
- ◎学力調査結果は、国語・算数・理科ともに基礎の学力が向上した。
- ▲算数については、教科総合や応用において、伸びが見られなかった。
- ▲算数については、教科担任制だけでは学力の底上げに十分な成果が上げられなかった。少人数や習熟度別指導など、個に応じた指導ができる体制づくりが今後の課題である。

【「各教科の授業の内容は理解できていますか」の質問に対する肯定値(%)】

	R2 6月	R2 11月	R3 2月	R3 4月	R3 10月
国語	87.9	91.0	89.8	96.5	100.0
算数	87.9	85.5	86.4	87.5	88.7
社会	91.4	92.8	90.5	94.6	98.1
理科	89.6	90.9	86.4	96.4	98.1
外国語	77.6	83.6	81.4	91.1	92.5

2 生徒指導の充実

■高学年部会での情報の共有化

- ・毎週木曜日に学年部会を設定し、翌週、翌々週の日課表の調整を行う。
- ・児童の情報の共有を行い、学習や生活面における児童の良さを伝え合ったり、配慮を要する児童の支援の仕方について話し合ったりする。

■協働的な生徒指導

- ・学年部会では、児童の生活状況を情報交換し、気になる児童に積極的に声かけする等、指導に活かす。
- ・学級担任が一人で指導することから、高学年部がチームとして指導する体制への転換を図る。
- ・適宜、学年集会を行い、教員間、児童間で、実態や課題を捉える。

成果と課題

- ◎現6年生の5年時からの推移を見ると、児童の学習へ向かう意欲が向上した。「わからないところがあったら質問する」、「課題に対して自ら考え、自分から取り組む」「教科担任制は良い方法だと思う」という質問に対して、「はい」、「どちらかといえばはい」と回答した児童の割合が徐々に高くなった。
- ◎学級担任との不適応による学校生活や学習への良くない影響は見られない。特に、自ら学習に取り組む姿勢が徐々に向上している。このことは、担任はもちろん、教科担任ともほど良い関係が築かれることにより、学習にも意欲的に取り組むことにつながっていると考えられる。

【学習へ向かう姿勢の肯定値(%)】

	R2 6月	R2 11月	R3 2月	R3 4月	R3 10月
質問する	86.2	83.7	83.0	89.3	86.8
自ら取り組む	79.3	78.2	83.1	82.2	84.9
良い方法	87.9	90.9	91.5	96.4	100.0

3 中学校への円滑な接続

■学年部体制の充実

- ・毎週木曜日は、どの学年部も学年部会をもち、指導の方向性を共通理解している。
- ・中学年部でも担任同士の交換授業を取り入れている。

■保護者への周知

- ・PTAの授業参観では、普段通りに教科担任の授業を行い、保護者への周知を図る。
- ・学校評価アンケートで児童や保護者の考えを聞く。

成果と課題

- ◎学期末に行う学校評価アンケートにおいて、「担任以外の先生とする授業も楽しい」と言う児童が、5.0P増加している。
- ◎保護者に対する学校評価アンケートでも「教科担任制やTT指導は児童にとって良い方法である」と言う保護者が2.0P増加している。

【学校アンケートにおける教科担任制の取組の肯定値(%)】

	R2 1学期	R2 2学期	R3 1学期	R3 2学期
児童	92.0	94.0	96.0	97.0
保護者	97.0	98.0	98.0	99.0

1 学習指導の充実

■専門性を活かした授業づくり

- ・担当教科の決定にあたっては、各担任の専門性や希望に配慮しながら話し合いをもち、教員のモチベーションが上がるようにすることを大事にする。
- ・専科教員の専門的な授業と2クラスでの授業交換に取り組み、指導の統一を図りながら、2度の授業の中で授業改善を進める。

■クロス集計により学習意欲の向上を目指す

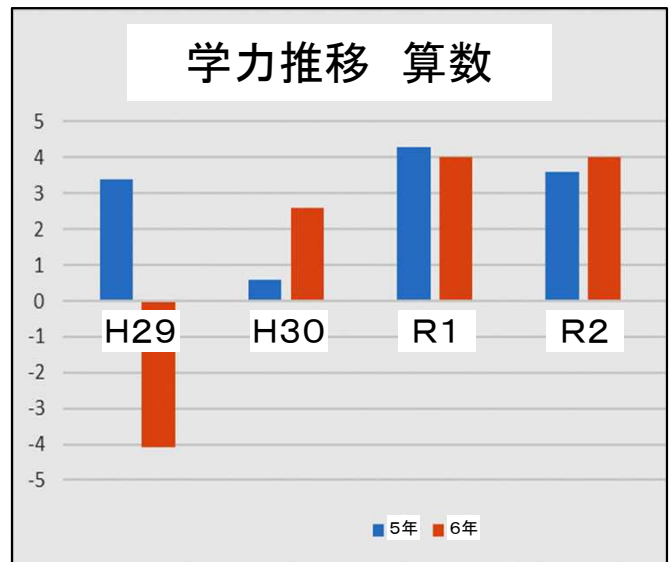
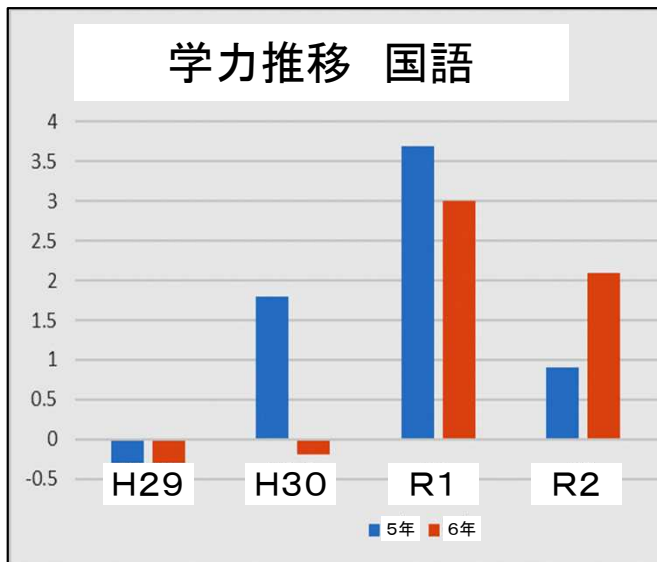
- ・各学期末に国語と算数での教科の愛好度、単元テストの達成率をクロス集計し、その推移を見ていくことで、児童の意欲と学力を個別に追いながら授業改善を進める。
- ・特に、達成率が60%未満の児童の学習意欲が向上することをめざし、授業改善を進める。また、個別の関わりや支援について考え学年部で共通理解を図る。

成果と課題

～2度の授業による授業改善～

- ◎本校では、専科教員の授業と合わせると全学年で教科担任制の授業に取り組んだことになる。令和元年度から考えると随分交換授業が増え、教科担任制が進んできたといえる。
- ◎交換授業は5つの学年で取り組み、特に国語と算数の交換が3つの学年で、社会や英語の授業交換も広がった。
- ◎時数を考えた時に、どんな組み合わせができるかも考えていくことで、5・6年生にならない、他の学年でも進んで授業交換する姿が見られるようになった。
- ◎授業改善に取り組んだ教科担当からは次の①～③のような声があがった。
 - ①指導内容に対するつまずきや反応がつかめ流れの組み方がよりうまくなってきた。
 - ②課題の精選が進んだ。
 - ③教具づくりや授業準備をする時間が増えた。

【クロス集計での授業改善・個別指導後の校内学力テストの結果】



◎教科担任制を始めたR1年度から、算数・国語共に学力が向上している。

2 生徒指導の充実

■複数の目でみることによる児童理解の充実

・教科担任制に取り組んだ学年では、隣のクラスの先生や専科教員など複数の教員が関わり、児童の様子を共通理解する場をもつことで、児童理解が深まることを大事にする。

■質問できる人間関係づくり

・担任以外の教員が授業をしたり関わったりすることで「困ったこと、わからないこと」を教員に聞くことができる体制や雰囲気づくりをする。また、児童質問紙を活用し、個別の関わりを増やし信頼関係を築く。

・授業や生活の様々な時間で自分の考えや思いを伝える場をつくり「自分の思いを友達に伝える・質問する」ことのできる児童の育成を学年で目指す。

成果と課題

～児童質問紙から、児童理解を深め

関わりも深める取り組みを～

- ◎教科担任制が進んだことにより、教科担任制に取り組む学年が増えR1年度は2つの学年だけだったが、R3年度には5つの学年で取り組むことができた。高学年だけでなく低学年での取り組みもできた。
- ◎必然的に児童との学習や生活での関わりが増え、学年会で様子を共有し、同一歩調での対応ができるようになった。また、児童の困りや変化に素早く対応できるようになった。また、教科の愛好度や理解度についても質問紙からつかみ、関わりを考えてきた。
- ◎児童質問紙は、「児童の思いを表している」と、どの教員も思いながらその結果を見ていくことを大事にしてきた。

【「授業でわからないことがあったら先生に質問したり、友だちにやり方をたずねたりしていますか」の推移】

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
R1年度	55.5%	27.0%	7.5%	10.0%
R2年度	58.0%	28.6%	10.5%	2.9%
R3年度	62.2%	29.2%	7.1%	1.5%

◎教科担任制を進めるほど、児童が質問する割合が増えていくことがわかる。

3 中学校への円滑な接続

■6年生で充実した教科担任制を

・中学校でのスムーズな移行を目指し、6年生では5教科での質の高い専門性を活かした授業づくりをし、授業改善を一層進める。

■学年部体制の充実

・教科担任制に取り組んだ学年部では、より学年部での共通理解を図る必要がある。そのため、毎週学年会を設定し、学年長を中心に児童の学習と生活について情報交換、共通理解を一層深める。

成果と課題

～6年生でより多くの教科で教科担任制を組む～

- ◎教科担任制の取り組みが進んでいくほど担任同士の授業交換が進んだ。
- ◎6年生では、R1年度は2教科だけであったがR2年度には6教科になった。担任同士で自主的に交換するようになり、児童・教員どちらも深い学びにも繋がることが実感できたといえる。6年生でより多くの授業を担当以外の先生が受け持つことで、中学校での学習や生活に早くなじんでいけるのではないかと考える。
- ◎児童の中には、教科担任制のよさとして「授業をする先生が替わることに早く慣れるために必要」と書いていることも毎年あった。児童自身が必要感がもてるようになった。
- ◎本校では、学年部体制がとれ、1学年3人から5人の教員がいる。高学年になるほど授業時数が多くなり、学年会をもつ時間がとりにくくなる。しかし、教科担任制を進めていくにつれ、学年部会の必要性が増してきた。



「小学校教科担任制」導入の成果と課題(宇佐市立四日市南小学校)

1 学習指導の充実

■意欲向上を実現する授業づくり

- ・教員の経験・得意分野・実践経験を活かした教科分担と日課表づくりを行う。
- ・2学年または2クラスを担当することで、授業の質の向上を図る。
- ・教科担任を実施する高学年担当者は、週末の部会の中で振り返りを行い、共通理解を図る。

■教材研究の効率化と授業改善

- ・担当授業時間を平均化し、授業等の準備時間を確保する。
- ・指導教科の減少により、教材研究の効率化を図る。
- ・学習内容の系統性を踏まえた教材研究により授業改善を行う。
- ・校内研究会や互見授業により、学年部の中で共通理解を深めることで、授業改善に繋ぐ。
- ・タブレットを活用することで、授業展開や児童の考えなどを共有し、個別指導にも繋ぐ。

成果と課題

- ◎担任の得意分野・経験を活かした授業交換により、専門性を生かした教科指導ができたことで、児童の意欲向上が見られた。
- ◎複数学年で同じ教科を指導することで、学習内容の系統性を捉えて授業に生かすことができた。
- ◎週末の部会を実施し振り返ることで、担当学年内で同じ視点の指導ができ、効率的な授業展開になってきた。
- ◎個人のタブレットに学習の足跡を残すことで、授業の展開方法や児童の考えなどを共有でき、個別指導にも活用することができた。
- ▲最初の2年間は、同学年内の教科担任制だったので、同じ授業を2回することで授業改善に繋がった。3年目は、5・6年単学級における実施のため教材研究の時間確保が困難であり、また指導する児童数も多くなったことから、「習熟度別指導」を絡ませた授業の工夫やSSSの活用等の工夫が必須である。
- ▲ICTを活用した教科担任制によって授業をより活性化していきたい。

2 生徒指導の充実

■複数体制による多面的な児童理解

- ・週末に高学年部会を開催し、個別児童の授業態度や全体的な雰囲気等の情報を交換し、翌週の指導の方向性を共有する。

■組織的・協力的な指導体制

- ・担任以外でも同じ指導が徹底できるように、生活のルールや課題に対する取り組みなどを共通理解し指導に当たる。
- ・担任以外の教員とも相談できる関係づくりを工夫し、組織的に取り組む。
- ・個別の支援や配慮が必要な児童については、授業毎のチェック表を活用して学習の様子を共通理解するとともに指導に生かす。

成果と課題

- ◎授業中だけでなく、日常的に児童の最近の人間関係・家庭状況など配慮が必要な場面の情報交換が活発にでき、早急な対応・指導に生かされた。
- ◎高学年部会で、学習の対応の方向性や有効な指導方法などを共通理解することができた。また特別支援教育の視点から指導法や教具の連携ができた。
- ◎同じ目線で同じ指導を徹底することができ、生徒指導上の効果は大きい。
- ▲学年部会等で個々の児童実態を共通理解するのに時間がかかるため、部会を効率的に進めるための工夫がさらに必要である。
- ▲生徒指導の経験差があるため、バランスがとれた指導体制をつくる必要がある。

3 中学校への円滑な接続

■中学進学を見通した指導

- ・指導方向の共通理解を図り、中学移行への不安解消に向けて働きかける。
- ・教科担任による指導を児童理解につなげ、より細やかな指導に生かす。

■保護者への周知

- ・保護者に教科担任制の取組について知らせ、理解・協力を求める。
- ・学校運営協議会・PTAで周知を図る。

成果と課題

- ◎年度当初のオリエンテーションで高学年は教科担任全員で統一して指導していくことを実感させることにより、学習ルールの統一が図られた。
- ◎これまでの実績から、児童質問紙調査では教科担任制を肯定的に捉えている児童が多かった。
- ◎担当同士で情報交換することで、多面的な児童理解ができ細やかな指導に生かすことができた。
- ▲現実的に学び合う体制づくりが難しいため、指導力のある教職員が特に高学年には必要になる。

1 学習指導の充実

■質の高い授業実践

- ・指導教科数が絞られるため、より充実した教材研究ができる。
- ・2学年同じ教科を担当するので系統性がよく見え、それを指導に生かせる。
- ・課題設定の工夫、振り返りの記入の指導等がどの教科においても共通の視点をもって行うことができる。
- ・互いの授業を観察する時間もでき、指導の共有化、授業改善につなげられる。

■学習ルールの共通理解

- ・授業者ごとに学習ルールに差がでないよう、学年始めに職員で共通理解を図る。

成果と課題

- ◎意欲もてる「課題設定」や、児童同士がつながり合える「学び合い」を意識した授業が展開されるようになった。
- ◎各教科に対する愛好度が高まった。

【単元テスト 目標値達成率(%)】

国語	令和2年度			令和3年度	
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期
現6年	81	81	90	93	93.5
現5年				96.8	93.5

算数	令和2年度			令和3年度	
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期
現6年	100	100	96	96.8	87
現5年				100	100

2 生徒指導の充実

■学年部組織の充実

- ・児童の情報交換がスムーズにでき、相談する機会が増える。
- ・週に1回高学年部会を実施し、児童の様子について情報交換を図る。

■生徒指導の充実

- ・宿題や指導法など担任の違いによる差異が生じない。
- ・他の学級の児童であっても複数の教員で指導や支援ができる。

成果と課題

- ◎学習面、生活面ともに常に情報交換を行い、早い段階での対応ができる体制を組むことができた。多くの教員が様子を見たり声をかけたりすることで、不安のある子が和らいでいる様子も見られた。
- ◎一つの教科を同一の教員が担当するため、宿題や指導法または教室環境等においても担任や担当による差異が生じにくい。



3 中学校への円滑な接続

■新しい環境への適応力の育成

- ・きめ細やかで丁寧な指導支援を通して、学力、生活力、コミュニケーション力など適応力を高めることができる。
- ・小中連携会議(年間5回)と、同じ中学校に進学する6年児童の他小学校との交流会(年間3回)の中で情報交換を行う。

成果と課題

- ◎複数の教員と関わることで学力、生活力、コミュニケーション力といった環境に適応する力、社会性等が育ち中学校への円滑な接続へとつながっている。
- ◎中学校の教科担任制について本校卒業生の95%の生徒が「特に困りはない」と回答している。(5月時点)
- ◎中学校の教員に授業を公開し、小学校の様子を知ってもらうことができた。

1 学習指導の充実

■ 系統性を意識した指導

- ・6年生の授業では5年生の学習内容を意識しながら行い、5年生の授業では6年生の学習内容にどのようにつながっていくかを意識しながら行った。
- ・5・6年生の系統だけでなく、下学年からの系統も意識して授業を行った。

■ 児童の戸惑い・困りの解消

- ・学習指導を充実させるために、児童の困りや戸惑いを定期的に把握した。また、その解決策を高学年部で協議し、必要があれば改善していった。
- ・特に新年度のスタートにあたっては前年度までの児童の困りや解決策を共有し、教科担任制がスタートする5年生が同じような戸惑いや困りを感じないように配慮した。

■ 校内研究との関わり

- ・研究内容や授業展開等を教職員で共有し実践した。
- ・互見授業を実施し、授業後に成果と課題を共有し、それぞれの授業に役立てた。
- ・教科担任制の公開授業に向けて授業研究を行った。

成果と課題

- ◎教科を絞って教材研究ができること、複数学年の授業を担当することで学年間の教科の系統性をより意識できることが授業改善につながった。

【授業の内容は理解できていますか？】

※小学校教科担任制に係る児童質問紙をもとに集計(R3年度)

	5年生		6年生	
	4月	10月	4月	10月
はい	64.5%	75.7%	67.5%	64.2%
どちらかといえばはい	27.6%	23.0%	30.0%	30.0%
どちらかといえばいいえ	5.9%	1.3%	2.5%	5.0%
いいえ	2.0%	0.0%	0.0%	0.8%

- ◎前年度の児童の戸惑いや困りをもとに配慮したり授業方法を改善したりすることで、年度当初の5年生の戸惑いや困りが少なかった。
- ◎校内研究を中心に授業改善の方向を共通理解し授業を行うことで、どの教科も充実した学習指導を行うことができた。
- ▲経験年数の浅い教員にとって、すべての教科を担当しないことが、次年度以降の不安材料になる。

2 生徒指導の充実

■ 多面的な児童理解と組織的な指導

- ・毎週火曜日の学年部会で、児童の情報交換を行った。特に、課題を抱えている児童のことや、授業中に気になった児童の姿については細かく情報交換を行い、学年部の職員全員で見守りや声かけを行った。
- ・学年部会の場だけでなく、日常的に情報交換を行った。
- ・週1回の職員暮会において、気になる児童についての情報交換を行い、全教職員で支援していけるようにした。

成果と課題

- ◎高学年部に関わる教職員がより協力的になった。また、学級担任という意識だけでなく、学年部の担任として情報交換を密にしながるとともに指導にあたるようになった。
- ◎複数の職員で児童に関わることができ、児童の多面的な理解につながった。
- ◎児童は担任以外の先生との関わりが増えたと感じている。
- ▲児童の指導をタイムリーに行いたい時に、日課表の変更をして対応したが、変更が難しい時があった。
- ▲複数の職員で児童に関わることができる反面、学級担任が児童との距離を感じる時があった。保護者の中にも「担任との関係が希薄なるのでは」と心配する声があった。
- ▲年度当初に学級担任が児童のことを理解するまでに時間を要した。



3 中学校への円滑な接続

■ 中学校進学を見通した指導

- ・教科担任制に対しての児童の戸惑いや困りの解消を考える時に、中学校進学に向けて必要な力をつけることも視野に入れて解決策を考えた。

■ 中学校との連携

- ・教科担任制推進校公開授業に中学校からも参加してもらい、小学校の教科担任制の取組を知ってもらった。
- ・小学校で2年間教科担任制を経験した中学生にアンケートを実施し(市教委実施)、その結果をもとに、中学校からの意見を聞いた。(公開授業の事後研にて)

成果と課題

- ◎たくさんの先生から学ぶ良さを感じる児童が増えた。
- ◎6年生は、ほとんどの児童が中学校での完全教科担任制に対して安心感をもっている。
(児童の声)
 - ・中学生になったら先生がどんどん変わるので今のうちに慣れておくとよい。
 - ・5年生の1学期は教科ごとに先生が変わることに違和感があったけど、6年生になったら当たり前になってきた。中学生の準備になっていいと思う。
- (保護者の声)
 - ・親としては中学校で教科担任制になり戸惑うより、小学校で慣れていた方がスムーズに移行できて良いと思う。
- ◎中学生へのアンケート結果より、小学校で教科担任制を経験していても、入学当初に授業を進めるペースや指導方法の違いに多少の戸惑いを感じていることが分かった。このことから、小学校の教科担任制で違いに慣れていく経験をすることとは中学校生活に対する不安の解消に有効である。
- ◎中学校進学を見通した指導について考える時に中学校からの意見はとても参考になった。
(公開授業に参加した中学校教員の意見)
 - ・小学校の教科担任制のメリット、デメリットはそのまま中学校にも当てはまる内容。発達段階の違いもあるので、小学校では「学習指導の充実」、「生徒指導の充実」の取組に重点を置いた方がいいのかなと思う。
- ▲今後も小学校での取組を中学校とも共有することが大切である。



「小学校教科担任制」導入の成果と課題(国東市立安岐中央小学校)

1 学習指導の充実

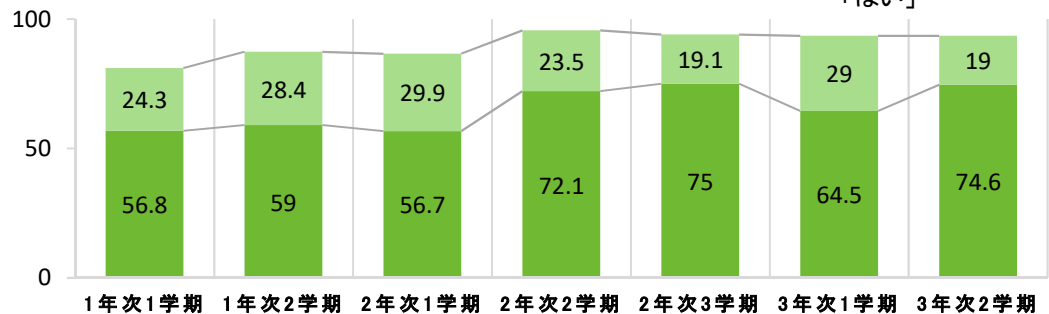
■「小学校教科担任制」の充実を図るための体制づくり

- 出張・年休など前もって予定がわかる場合は、調整して日課表を入れ替えて学級が自習にならない体制をとる。
- 人数の多い学年を2グループに分けた少人数指導により、個別指導の充実化を図る。
- 高学年だけではなく、全学年の担当を見直し、授業時間数の偏りを少なくできるように配慮した日課表を作成する。

成果と課題

- ◎下記の教科担任制に関わる児童アンケートのグラフで、年度が進む毎に肯定的に考える児童の割合が増えていることがわかる。
- ◎1学期よりも2学期、1年次よりも2年次と、体制に慣れて肯定的に考えるようになってきているのがうかがえる。
- ◎その理由についても、1年次には教科担任制の良さを見つけて活かしていこうとする姿勢がみられる反面、学級担任制の良さの方が優位に感じられて戸惑っている様子も見られた。それが、2年次、3年次と進むにつれ、教科ごとに担当が変わることへの違和感が徐々に薄れ、慣れてきている感想が増えている。

【教科担任制に肯定的な意見の推移(%)】 ■「はい」 ■どちらかといえば「はい」



- ▲担当教科が中学校のように決められていない中で、担当学年が決定してから担当教科を決めるようになるので、希望を尊重したり配慮したりが難しくなる。また、5・6年生が1クラスずつになって担任の数も減ったり、担当教科も県や市の縛りがあったりするため、必ずしも教科の希望が生かせるとは限らない。初めて教科担任制を担当する場合には、その戸惑いもある。
- ▲両学年のその教科を任されるとなると、学級担任制のときには気づきにくかった、1時間1時間の重みを感じる。

2 生徒指導の充実

■組織的・協力的な指導体制

- 定期的に行う高学年部会や機会を捉えての隙間時間に情報交換を行い、指導の方向性・対応などを話し合う。
- 5・6年のその日の出会いをスムーズに行うために、1校時は学級担任の授業が入るように配慮する。
- 学期始めや運動会などの行事ごと、定期的に高学年部集会をもち、高学年部で統一した指導をする。

成果と課題

- ◎担任一人で請け負いがちな生徒指導面での対応を、高学年部として共有し合うことができた。また、両学年に入っている特別支援教育支援員からの情報により、授業に入っていない時間の状況把握をすることができた。
- ◎複数の教員で児童に関わるので、多面的に児童理解をすることができた。
- ▲授業の持ち方によっては、担任する学級での授業時数が制限されることがあり、また、生徒指導の視点からも他の学級にも深くかわり、対応することになるため、年度当初は担任する学級の児童理解や関係づくりに時間がかかることがある。

3 中学校への円滑な接続

■学びの連続性の確保

- 中学校での教科担任制に向けてスムーズな移行ができるようにする。

成果と課題

- ◎複数の教員に指導を受ける体制に慣れることで、中学校での教科担任制への円滑な接続につながっていることが児童アンケートや卒業生へのアンケートの結果からうかがえる。
- ◎教室移動もスムーズに行うことができています。
- ▲変化への対応が厳しく教科担任制を否定的に捉えている児童の気持ちにも寄り添い、指導を引き継ぎたい。



1 学習指導の充実

■教員の専門性を生かす

- ・教科担任の決定にあたっては、得意教科を担当できるように、希望調査をして決める。
- ・教材研究の時間を確保するために、一人当たりの週持ち時数を20時間以内とする。

■三重第一小スタンダードの共有

- ・課題は青色二本線ではさみ、まとめは赤で囲むなどの授業スタイルを共有する。
- ・1時間の活動の中にペア・グループ学習を組み入れる。

■計画的な学習指導

- ・教科担任制推進教員が2週間前に、学級別の週日課表を配布する。

成果と課題

- ◎現6年生が教科担任制前の4年時に受けたCRT学力調査と、教科担任制後の5年時に受けたCRTにおける評定1の割合を比較すると、国語は、4年時の評定1が17.1%に対し、5年時には9.3%と7.8ポイント減少した。算数においても、4年時の評定1が12.2%に対し、5年時には4.7%と7.5ポイント減少した。また、算数においては、教科担任制+習熟度別指導を取り入れたことにより、評定3が4年時の70.7%に対し、5年時には76.7%と6.0ポイント増加するなど大きな成果を上げている。
- ◎教科担任制に関わる教員(10名)を対象に行なったアンケートの「教科担任制は、教科の専門性に基づいて、学習指導の充実につながっている。」という問いに対して、肯定的な回答が100%であった。
- ◎児童アンケートの「教科担任制は、よい方法だと思いますか。」という問いについて、肯定的な回答は96%という高い数値であった。

2 生徒指導の充実

■組織的・協働的な生徒指導

- ・各学年に複数の教員を配置し、組織的に生徒指導に取り組む。
- ・生徒指導上の問題が発生した時には、生徒指導主任が中心となり、学年部でケース会議を開いて対応する。

■校務支援システムの活用

- ・それぞれの教員が授業で気が付いたことは、その都度校務支援システムの「日々の様子」に入力して、情報を共有する。

成果と課題

- ◎複数の教員で児童を見守ることができるので、早めに問題を発見し、共有、対応することができた。
- ◎生徒指導上の問題を学年部で対応するため、学級担任が一人で抱え込むことがなかった。
- ◎生徒指導上の情報だけでなく、学習指導上の情報を共有するのに、校務支援システムへの入力は無効であった。
- ▲突発的に起こった事案について、その対応は生徒指導主任が中心になって行った。ただし、家庭への連絡は学級担任の役割になるので、学級担任の連絡が勤務時間外になることがあった。

3 中学校への円滑な接続

■中1ギャップの解消

- ・特別教室への移動を迅速に行う。
- ・学習系の活用を図る。



成果と課題

- ◎授業時間45分の確保のため、特別教室への移動は2列に並んで、整然と行うことができた。
- ◎各クラスとも教科担当の係を決め、翌日の授業で準備するものなど教科担任に確認し、学級に伝えるシステムができた。

1 学習指導の充実

■授業改善の取組

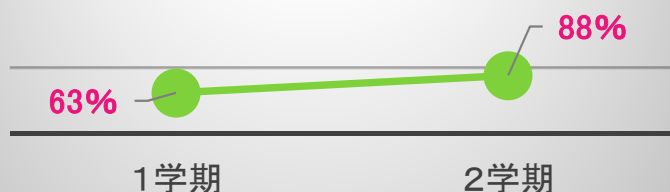
- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を目指し東小スタンダードの徹底をする。
- 《取組内容》
- 単元の指導計画や授業の流れを示す。
- 自分の考えをもたせ、ペア学習やグループ学習で考えを広めたり深めたりさせる。
- UDの視点に基づいた授業および学習環境を作る。

■互見授業・授業研究の取組

- ・提案授業と互見授業を合わせて1人年間3回以上行い、授業を参観し合う中で効果的な指導方法の研究および実践を行う。

成果と課題

【教員】学習指導の充実につながっている（R3年度）



◎校内研究の充実により、コロナ禍でのグループやペア学習で、1学期に比べて系統的な学習指導や専門性を生かした教科指導ができたと答える教員が増えた。単元末テストなどで学力の向上が見られた。

2 生徒指導の充実

■共通理解のための時間設定

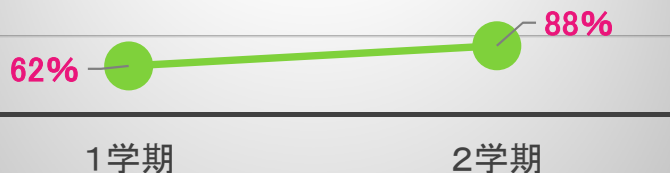
- ・児童の実態などを交流するための時間を確保し、指導方法や方向を共通理解する。
- 《取組内容》
- 校時表を変更し、木曜日の朝10分間の打合せ時間と月曜日の放課後時間の確保を行う。

■認める・ほめる取組

- ・「認める・ほめる」という東小スタンダードの声掛けの徹底を図り、組織的な生徒指導を充実させる。

成果と課題

【教員】組織的・協力的な生徒指導ができている（R3年度）



◎学年部の連携による生徒指導が1学期よりも2学期の方が進み、教員自身も実感それを実感し、26ポイントの上昇につながった。児童間のトラブルも早期に解決することができた。

3 中学校への円滑な接続

■教科担任制の抵抗感をなくす取組

- ・指導方法や方向を共通理解し、中学校訪問などを通して、児童の抵抗感を少なくする。

■保護者に実践を知らせる取組

- ・教科担任制の取組や児童の実態を積極的に知らせる。



成果と課題



◎1学期末と2学期末のアンケートとも、児童も保護者も大半が肯定的に受け止めている。

「小学校教科担任制」導入の成果と課題(豊後大野市立百枝小学校)

1 学習指導の充実

■学習規律と授業改善の取組

- ・学校全体で、学習規律について共通理解し、統一したことを徹底する。
- ・家庭学習の取組方ややり直しについて共通理解する。
- ・指導教科数を少なくし、教材研究の時間を確保する。
- ・授業の流れや板書について、推進教員を中心とした研修を行い、実践する。

■個に応じた指導の充実

- ・複数の教員で指導にあたり、児童のつまずきに迅速に対応する。
- ・学級担任と教科担任で連携して、個別指導を行う。

成果と課題

- ◎複数学年で指導するため、教科の系統性をとらえて、指導に活かすことができた。また、児童のつまずきにも早く対応できる。
- ◎学級担任が教材研究や準備の時間がとれるので、ICT等活用した充実した授業準備ができて、子どもの意欲向上につながった。
- ◎実験や実習など事前準備に時間を有する教科を担当以外が受け持つことで担任の負担が軽くなる。
- ◎「わからない時に誰に聞くか」というアンケートでは、「そのまましておく」児童は0%、「先生に聞く」児童は14%であった。また「友だちに聞く」児童は68%で年度当初より10%高くなったことから、学びに向かう力がついてきたといえる。

- ▲単学級での交換授業では、同じ授業を複数回することによるメリットを活かせない。
- ▲小規模校で教科担任制を実施する場合は、教員の人数確保が必要である。



2 生徒指導の充実

■多面的な児童理解

- ・児童の情報交換の場を月1回もつ。
- ・複数の教員で児童を見守り、指導することで、個性の伸長を図る。

■組織的・協力的な指導

- ・情報交換を密にして、チームとして同一歩調で児童の指導に当たっていく。
- ・学年部の組織運営をしっかりとる。
- ・担任以外の教員とも気軽に相談できる体制を作る。
- ・連絡会議で出てきた成果や課題は管理職に報告するとともに全職員で共有する。

成果と課題

- ◎月1回の連絡会議の中で児童に関する情報交換を行い、困りのある児童に対し、ベクトルを揃えて指導することができた。
- ◎学年部を複数の教員で指導していくため、児童の良さや可能性を引き出し個性を伸ばすことができた。
- ◎学習や生活のルールについて、指導に当たる教員が繰り返し指導するため徹底を図ることができた。
- ◎思春期を迎えた高学年児童の悩みや問題行動に対して、早期に発見し組織的な対応をすることができた。

- ▲昨年度の保護者アンケートで、「子どもと担任のつながりが強いので、学級担任制の方がよいのではないか。」という意見があった。この点については、引き続き教科担任制のよさや目的について学校だよりや学級懇談等を通して広報し理解を図っている。

3 中学校への円滑な接続

■連携型小中一貫教育の取組

- ・学習指導や生徒指導において、共通の指導項目を設定して取り組む。
- ・小中学校で互見授業を行い、各教科の指導力の向上をめざす。

■小小連携の取組

- ・小小で連携して、合同行事を行うことで、情報交換し、校内での指導に活かす。

成果と課題

- ◎小中学校で互いに授業を見合うことで、担当教科の授業改善に活かすことができた。
- ◎中学校区で、連携型小中一貫教育を進めているので、学習指導や生徒指導のノウハウを互いに交流し、指導に活かすことができた。
- ◎アンケート「教科によって授業する先生が変わることをどう思うか」では、保護者100%児童90%が肯定意見であった。

- ▲児童によっては、学級担任以外の教員との関係性を築くことが苦手な場合もあるので、個に応じた配慮が必要である。



小学校教員の専門性を高めた質の高い授業の促進
～小学校教科担任制の導入～
手引き

大分県教育庁義務教育課学力向上支援班
〒870-8503
大分市府内町3丁目10番1号
TEL (097) 506-5519